明治四十二年一月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百三十號

私立大日本婦人衛生會

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
內務省許可明治二十一年二月二十八日

婦人衞生雜誌

第貳百參拾號目次

恭賀新年

併て會員諸氏の健康を祈る

明治四十二年己酉元旦

私立大日本婦人衛生會

謹賀新禧

新潟支會
山形支會
宇都宮支會
茨城支會
高崎支會
米澤支會

大日本婦人衛生會

二月例會通知

來る二月六日（第一土曜日）午後一時半より神田區一ツ橋通り女子職業學校内に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一身體及其保護　　ドクトル　富士川游君

一精神療法の話　　醫學士　森田正馬君

明治四十二年一月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識ある人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆婦人のもつぱら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相謀て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは頗に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を慮かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ每月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尙之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の稱類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續登本に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし

●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三稱とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

●第七條　會員は本會に於て每月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戾せず

●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族妃殿下に願出るものとす

●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け[illegible]

[illegible]（郵券送付一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り每月領收人を差出すべし地方會員は總て前金として小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麴町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし

●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は久しく會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地

私立大日本婦人衛生會

◎役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子
（いろは順）
幹事　鳩山春子
同　羽田三緒子
同　岡田德子
同　高木かう子
同　山本多穗子
同　松平芳子
同　三浦敬子
同　石川貞子
同　岩下ゆか子
同　濱田捨子
評議員　長谷川仲子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　穗積歌子
同　土肥多越子
同　緒方悅子
同　岡山とし子
同　小川孝子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　片山龜子
同　吉武輝枝子
同　丹波貞子
同　高橋寧子
同　田村きよ子
同　男爵夫人　南部限子
同　中濱芳子
評議員　子爵夫人　山口貞子
同　松井正子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮本樂子
同　宮下咲子
●支會、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別賛成員
（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　入澤達吉君
理學博士　飯島魁君
ドクトル　伊澤信平君
色川圀士君
醫學博士　伊東祐彥君
ドクトル　飯盛挺造君
醫學博士　伊藤隼三君
理學博士　石川千代松君
内科醫學士　岩井禎造君
醫學士　石原久君
醫學士　簗瀨雄一君
醫學士　石原喜久太郎君
男爵　濱尾新君
醫學博士　濱田玄達君
法學博士　鳩山和夫君
東京　萩原綱四郎君
醫學博士　芳賀榮次郎君
長谷川泰君
新潟　長谷川一詮君
小兒科　小原頼之君
醫學博士　岡田榮吉君
醫學博士　林春雄君
醫學博士　佐藤達次郎君
醫學博士　緒方正規君
步兵中佐　堀內文次郎君
醫學博士　土肥慶藏君
醫學博士　岡田和一郎君

醫學博士　大澤謙二君
醫學士　大西秀治君
醫學博士　大澤岳太郎君
一等藥劑官　恩山重信君
醫學士　若杉喜三郎君
醫學士　渡邊房吉君
男爵　加藤弘之君
醫學博士　加藤照麿君
醫學士　賀古鶴所君
醫學博士　河本重次郎君
醫學博士　片山國嘉君
醫學士　川上雅駿君
醫學博士　櫻田龜一郎君
醫學博士　金杉英五郎君
醫學博士　笠原光興君
醫學士　唐澤光德君
醫學士　河野衛君
醫學博士　高橋順太郎君
ドクトル　高山紀齋君
醫學博士　高木兼寬君
法學博士　高木豐三君
醫學博士　田代義德君
新潟　田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　高田耕安君
新潟病院長　高橋辰五郎君
藥學博士　丹波敬三君
醫學士　高橋貞順君
藥學博士　田原良純君
醫學士　田村光顯君
醫學博士　久保猪之吉君
醫學士　米山彥郎君
二等軍醫正　星野葆光君
醫學博士　宮本叔君
三等軍醫正　横井忠岡君
帝國教育會長　辻新次君
理學博士　坪井正五郎君
醫學博士　長與稱吉君
男爵　南部甕男君

藥學博士　長井長義君
醫學博士　遠山椿吉君
醫學博士　中濱東一郎君
醫學士　黑田支通君
醫學士　栗本庸勝君
海軍中佐　小笠原長生君
醫學士　村松鐵三君
醫學博士　殿川宗雄君
醫學博士　栗本東明君
醫學博士　山田鐵藏君
醫學士　山田弘倫君
醫學士　山根正次君
岡山　山川春二君
傳染病研究所技手　丸山長四郎君
ドクトル　松山陽太郎君
ドクトル　此木信六郎君
盲啞學校長　小西信八君
廣島　小泉賀君
醫學士　古川榮君
東京　布施正斷君
男爵　後藤新平君
大學名譽教授　エ、ベルツ君
醫學士　甲野棐君
寺田勇吉君
醫學士　寺田[illegible]作君
醫學士　寺田織尾君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　足立寬君
ドクトル　富士川游君
高崎醫會長　土谷全次君
產科婦人科　水原漸君
ドクトル　久保田誠陵君
醫學博士　佐々木政吉君
醫學士　淺田決君
醫學博士　朝倉文三君
ドクトル　朝山義六君
醫學博士　齋長勝剛君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　櫻井郁二郎君
ドクトル　佐伯理一郎君

醫學博士　榊順次郎君
醫學博士　榊保三郎君
醫學士　佐藤得齋君
醫學博士　櫻井恒次郎君
醫學博士　桐淵鏡次君
醫學士　北村精一君
醫學博士　北島多一君
醫學博士　北川乙治郎君
醫學博士　木下正中君
醫學士　北島小太郎君
醫學博士　北里柴三郎君
醫學博士　三浦守治君
醫學博士　三浦謹之助君
小兒科專門　宮本仲君
理學博士　箕作佳吉君
醫學博士　三島通良君
醫學博士　三宅秀君
醫學博士　三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學博士　島村俊一君
醫學博士　弘田長君
ドクトル　日高昂君
ドクトル　須田卓爾君
醫學士　澤川德君
醫學博士　木村德衛君
醫學博士　森林太郎君
醫學士　瀧川三男三君
醫學士　波多野悟君
醫學博士　吳秀三君
ミス　リツテル
ミス　ヒユース
ミセッス　コーツ
ドクトル　菊池循一君
醫學士　橋本左武郎君
醫學士　鳥居作祥君
醫學博士　土川卯三郎君
ドクトル　佐藤運雄君
ドクトル　西山信光君
醫學士　澤崎寬制君



身體及ひ其保護

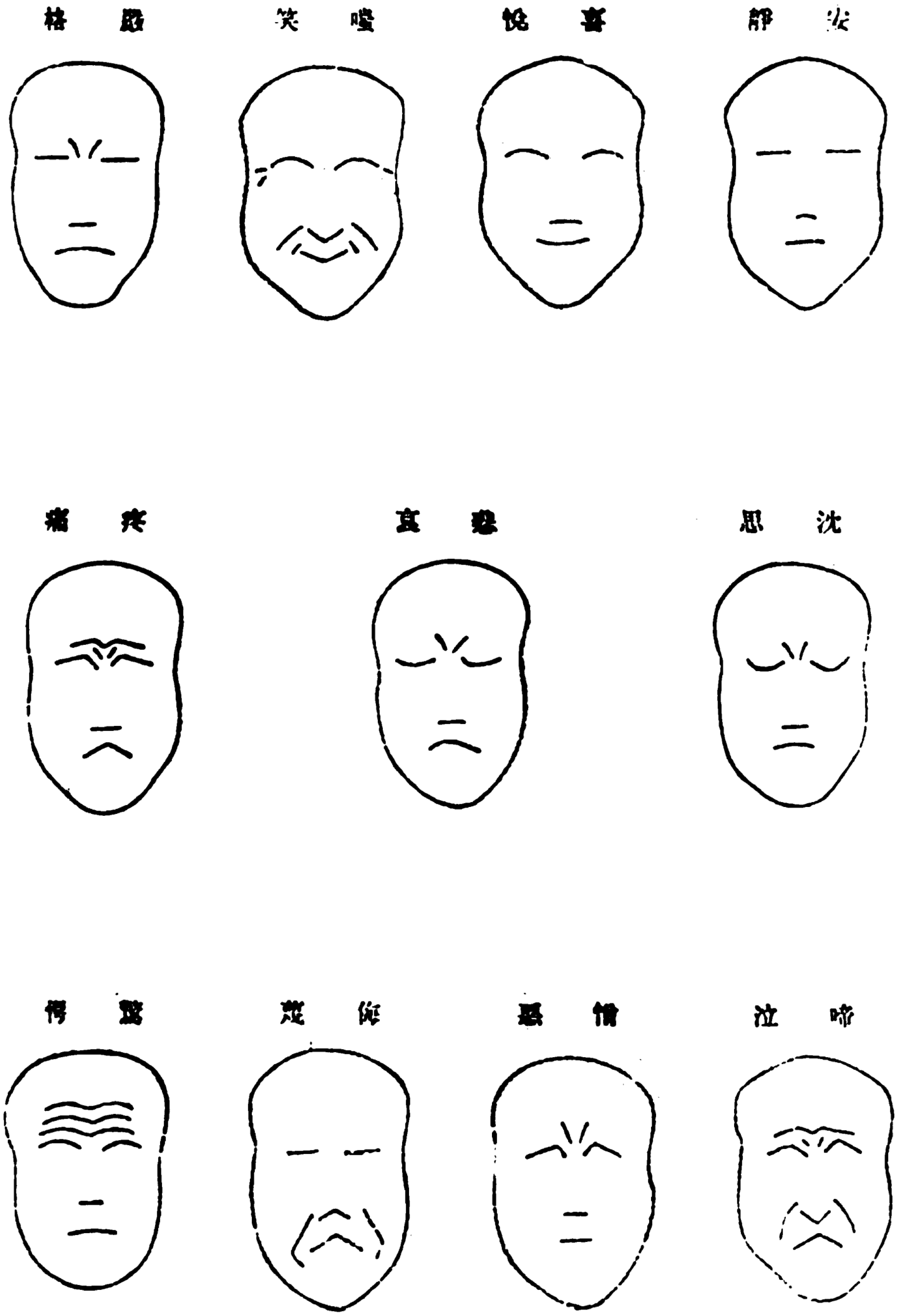
（顏貌と病氣）

ドクトル　富士川游

今日は顏の貌と病氣との關係のことに就てお話を致す積もりで罷出ましたが、餘りお話を長く致しませぬで、專ら圖をお示しすることに致します、皆樣も御承知の通り、人間の顏の貌が氣分に依つて色々に變ると云ふことは、申上げる迄もありませぬけれども、細かに調べて見まするに、氣分の工合で、以て感情がその顏の貌に表はれる、其貌がザッと積もつて四十八通りあります、この圖に就て御覽になれば能く分ります。

この圖は顏の貌を變へる原因になる所の筋肉の働き方を示したのであります、大體說明致しますと、平氣な顏をして居るときには斯樣に筋肉が休んで居る（安靜）、喜びます時には筋肉が餘程働きます（喜悅）笑ふ時には斯樣になる（嘻笑）、おかしくッて笑ふ時と喜んだ時とは違つて居ります、それから極く眞面目な顏（嚴格）と平氣で居る顏（安靜）とは違ひます、目の緣は同じでありますけれども眉の間が收縮する具合が違つて居る、それから考込んだ時（沈思）、悲しい時（悲哀）、痛みのある時（疼痛）、泣く時（啼泣）、物事を嫌ふ時（憎惡）、人を馬鹿にする時（侮蔑）、驚いた時（驚愕）と、大體人間の精神—健康な精神の働く場合に、顏の貌の變り方は斯樣なものであります。

さう云ふ風に顏の貌といふものは精神に依つて色々になるもので、是は人相といふやうなことで、昔か


安靜
喜悅
嗤笑
嚴格
沈思
悲哀
疼痛
啼泣
憎惡
侮蔑
驚愕

ら種々調べて居つたことでありまして、これをお話し致すには時間を要します。私は殊に病氣―身體の内に何か工合の惡いことがあつて顏の貌が變るのはどう云ふ風であるか、斯う云ふことを今日お話致さうと思ひます。

それで大體の處を申しますと、人間が病氣に罹つて顏の貌の變りますのは、第一に皮膚の下にある脂肪がなくなりますのと、筋肉が弱くなりますのと、其二つの爲に皺と線が出來るといふことに歸します。そ

第一圖
額橫皺襞
(額に橫に走る)



うして病氣の爲に筋肉が弱くなり脂肪がなくなつて皺だの線が出來るのは概略左圖の如くであります。これは凡て子供に就て描いたのであります、第一圖は額橫皺襞と言つて、額の橫に線が出來て居る、是は前額筋が痩せて出來るのでありますが、是は腹以外にある痛みで、例へば手が痛いとか頭が痛いとか云ふ場合が多いといふことであります。其次には目の內側の方に縱に皺が寄る(第二圖)これを眼額皺襞と名づける。是は健康な人では前に申した悲哀の顏貌と似て居りますが、病氣であるとツマリ是は腹の痛い時です。其次は目の下で以て鼻の根から顴骨の所まで線が出來る(第三圖)是は佛蘭西のジヤヂローといふ醫者が初めて言ひ出したので、ジヤヂロー氏の線といふ名が附いて居りますが、是は子供では腦神經の病氣、大人では腹の下の方の病氣に出來るのであります。其次には鼻翼の側から少し曲がつて口の下の所まで線が出來る(第四圖)是はやはり佛蘭西のド、サールといふ人の初めて謂つた名で鼻線とい

第二圖
眼額皺襞
(鼻椎より額に鉛直に走る)



第三圖
ジャサロー氏線(眼顴骨線)
(眼內角より下方に顴骨下方に走る)



第四圖
ドザール氏線(一名鼻線)
鼻翼下端より下たりて、頰筋の外端に至る。多少彎曲す。



第五圖
鼻副行線
鼻より顴に至る。半月狀を劃す



ひますが、昔は是は肺結核などのやうに、永く病らつて弱る場合に起るとしてあります、是は上の方の病氣なら頭の病、下の方の病氣なら腸の病でも出來ると云ふことを言つて居る人があります、何れも確實ではないと思ひますが、兎も角も永く病らつて身體の弱つた場合には此ド、サールの線が出來るといふのであります。其次は鼻副行線といひまして（第五圖）丁度鼻に副ふて口の兩側を半月狀に曲がり、さうしてヅーッと頤の方まで下がつて來ます、是は胸の病氣殊に呼吸が困しくなる所の病氣には斯う云ふ線が出來るといふのであります。

斯樣に顏の皺或は線を見て、是はどの邊にどう云ふ病氣があるか、どこに痛みがあるかと云ふ大凡の判定を付けるといふのであります、幼い子供などは言葉が解りませんから、斯う云ふことに氣を著けて置きますると、子供が病氣の時に凡その想像が付くのであります。

第二には皺又は線ばかりでなく、顏貌の全體で、疾患の部位又は有樣を知るといふことで、この方は、色々の人々の研究で、その顏貌にも色々の名が附いて居ります。それで只今迄は健康な人の顏の貌の變り方や、病氣で筋肉が瘦せて線の出來ることをお話致しましたが、今度は病氣で全體に顏の貌の變りますことを、お話する譯になります。

先づ疼痛顏貌といふ貌があります、疼痛顏貌と謂ひますのは、身體の內に痛みがあつて、其痛みの爲に顏の貌が變るのであります、痛みにも種類があつてちよつと止まないで永く續いて居る痛みがある、其場合には目が閉ぢて淚が出て、さうして口を廣く開けて泣く、顏が赤くなつて汗が出る―之も主に子供に就いて申上げます―さう云ふ風な場合であると痛みが永く續いて居るのであります、それから手足を動かして聲を出して泣くのと、只泣くのと、それが交番に來ます、それから腹が非常に强く張つて居りまして手足が顫う、斯う云ふ場合でありますと、是は腹が痛いか、齒の生へるのが難かしくツて泣くの

か、或は小便が旨く出ないで泣くのであります、それから手足を動かして、泣くのに聲を立つて泣いて止み間がない、さう云ふ場合には耳が惡いのです、それから、痛みがサウ劇くなくつて且つ時々止む、例へば肺炎、肋膜炎或は腹膜炎といふやうな病氣であると、同じ痛みの顏でも只今のと違つて、是は目を開けて口が半分閉がつて、眉が上がつて、口角が曲り、さうして、泣くにもサウ甚くは泣かない、ブツブツいつて居るやうに見える、それが疼痛顏貌といふのであります。其次には憂鬱顏貌と謂つて、鬱ぎました時の貌、是は唇が前の方に出て、頤も前の方に出て、顏の線が深くなり、さうして眉の間に矢張り皺が出る、斯う云ふのであります、是は病氣では凡て永い病氣の場合、若くは精神に異狀のある場合に起るのであります、是は(寫眞)非常に精神が鬱いで居つて氣狂になつた場合に寫したのであります。其次には苦悶顏貌、是は身體に大變苦しい所があつて起る、例へば心臓病とか實布的利亞に罹つて居るとか云ふやうな、殊に呼吸をするのが苦しい時に表れる貌であつて、是は同時に顏の色が非常に變るのであります。其次には腦水腫顏貌、是は腦膜炎に罹つて居る者の顏が是であります、是は額に皺が出來て、頭が大きく、口が塞がり、顏色が赤くなつたり青くなつたり致します。それで是は前に申した眞面目な顏(嚴格)をして居る時に能く似て居ります、是は腦膜炎といふ病氣に罹つて腦水腫が出來て起るのであります。其次には痲痺顏貌といふのでありますが、この痲痺顏貌と申しますのは、眼の光が非常に鋭くなつて、眼瞼が下の方に下がつて、瞬きをすることが少い、チツとして居る、それから瞳孔が大變に大きくなります、さう云ふ病氣は、極く疲れた狀態で、何も自分には希望がないと云ふやうな時に表はれる、斯う云ふ顏貌は大抵永く痛みがあつて疲れた後か、或は重い病氣が永くあつた後か、或は今死ぬると云ふ直前に起ります。其次には苦笑顏貌と云ふのでありますが、是は殊に額が赤くなつて頰に皺

が出來、眼を細くして鼻の孔が開いて、唇を尖らして居る、前に申した『侮蔑』の貌といふやうに、即ち人を輕蔑する時のやうな貌をする、斯う云ふ顔貌は病氣では非常に澤山ありますが、病氣でなくつても斯う云ふ貌をさせることが出來ます、電氣を掛けて其處の筋肉を收縮させれば其貌になります、病氣では破傷風と云ふのになると其貌が出て來る、破傷風と云ふ病氣は御承知の通り疵口から黴菌が這入つて來て、神經の病氣を起して大抵は死ぬるのであります、今お廻し致した中にも(寫眞)ありますが、顔の半分が破傷風に罹つて居る、さうして極く靜かな狀態であつても、右の方の眼はそれが爲に痙攣を起して閉ぢて居る、さうして唇が、右の方は閉ぢて居る、顔が動かない、所が試みに此患者に故意に口を開かして見ると云ふと、忽ち顔全體が痙攣を起して恰も苦笑ひをするやうな顔貌になる、さうして左の方は病氣のために麻痺して居つて動かないのであります。其次は惡心顔貌—惡心顔貌といふのは、腹工合などが惡くツて胸が惡くなつた場合に出來る顔であります、口を開けて鼻から口の邊に至る線(圖)が暗くなります、即ち健康な人よりも深くなります、さうして舌を突出して口角が曲がる、物を嚙むやうな口の運動を致します、是は消化不良と云ふやうな病氣とか胃の病氣とか、すべて腹工合の惡い時の貌でありまして、斯う云ふ貌をして居る人は澤山あります。其次には老人顔貌といふので、老人顔貌と云ひますのは、子供で以て丁度老人のやうな顔貌をして居るのであります、眼に艶がなく、動かないで、皮膚が一般に皺襞が出來まして、さうして如何にも老人の如く、或は木乃伊のやうに、人間を乾したやうな貌になります、是は榮養の惡いために起るのでありまして、例へば牛乳で子供を育てるのに、其牛乳の與へ方が惡いと云ふやうなことから、子供が非常に衰へて仕舞ひまして、遂には子供で居ながら今申したやうな老人の顔貌になるのがあります(寫眞供覽)。其次にはヒポクラテスの顔貌、是は御承知で

もありませうが昔の偉い醫者にヒポクラテスといふ人が居りましたが、此の人が斯う云ふ顔の貌を見出したのであります、生きて居る人間で、其顔を見ると丁度死んだやうであるので、さうして眼の縁に黒い輪が出來て、眼球が落込んで仕舞ひ、鼻が尖つて口も尖り、非常に鼻が鋭くなり、さうして顔の色は丁度蠟の如くになるのであります、是は永い病氣か或は死ぬ前に起る顔貌であります、さうして身體の内には何も無いやうに見える、五臟六腑も魂も無いやうに見えます、コレラなどのやうに、急に來て人間の身體が弱つて死ぬと云ふ病氣には、何時でも此ヒポクラテスの顔貌といふのが出來ます。それから精神の中に一種愉快な感覺があつて起きます所の顔に快美顔貌といふのがあります、是は矢張り病氣でも、一種の愉快といふ感覺がある場合に出て來るのであります。それから强直顔貌といふのは丁度面を被つたやうな顔貌になるのであります、健康な人であると、驚いた時に丁度其顔貌になる、是は眼が直視をして球が動かない、それから眼も非常に大きく開けて瞬きをすることが少いし、眉毛が少し上の方に上がつて來る、斯う云ふ顔貌になつたら大抵は神經の病氣であります、甚しきに至つては顔が全く動かないのがあります、それは緊張性顔貌と謂ひまして―此表には書いてありませぬが、全く動かない恰も蠟で拵へた人間のやうになる、是は其人であります(寫眞供覽)。其次には痴愚顔貌―痴愚顔貌といひますのは精神も何もないやうな顔貌になるのであります、是は甚しく口を開けて舌を出す、眼を半分閉ぢ、額に皺が出る、是は所謂馬鹿氣た顔で、精神に缺點のある場合に起きる顔貌でありまして、大人になつて其樣な顔をして居れば、他から見て直に馬鹿といふことが分ります、それから此寫眞は八歳と九歳との間の子供ですが、是は口も餘り開いて居りませず、舌も出して居りませぬ、眼は半分閉ぢて居る、外に鼻の形が變つて居る、是は咽喉に病氣があつてさう云ふ貌をして居るのであります、甲狀腺と

云ふのがあつて、其所が病氣に罹つた爲に馬鹿になつて生れると云ふと、只今申したやうな顔貌が立派に表れて參ります、是は獨逸のパウンドレルといふ先生が療治をして治りましたのです(寫眞供覽)是は藥を服ませてから二年半經ちましたのです、二年半の間に元に復つたのであります、是は普通の馬鹿ではありませぬで、甲狀腺といふ所に病氣があつて其爲に起る馬鹿でありまして、この馬鹿は隨分澤山あります、寫眞で御覽に入れた方の馬鹿は治りませぬけれども、甲狀腺の馬鹿といふ方は治るのであります。其次には注意不能の顔貌と云ふので、是は鼻に病があつて、其爲に物事に注意が出來ない、是は學校の兒童に澤山あります、鼻の孔が塞がつて居るとか、腫物があるか、何か故障があるのです、今御覽に入れた寫眞の中にもありますが、甚しくなると餘程鼻の形が變つて來て、さうして上顎が飛出て變な形になつて、寐る時に口を開けて寐て、鼾をかきます、是は誰が見ても分かる顔貌であります。其次にはハッチンソンの顔貌であります、是はハッチンソンと云ふ人が見出したのであります、是は一つの神經の病氣で來ますので、別段深くお話する必要はないが、只醫者の方で、斯う云ふ風な難かしい病氣があつて、其病氣になると出て來る顔貌であると云ふだけでございます。其次には卵巢病で顔の貌が變る是は英吉利の名高い卵巢專門家のスペンセル、ウエルスと云ふ人が見付けたのであります、是は又一種特別な顔で、永く病つて居つた時に出た顔貌のやうです、つまり骨立つて來て、眼が窪んで、額に皺が出來て、鼻が鋭くなつて、唇が薄くなつて、口角が下がつて來る、其上に前にお話した疼痛顔貌のやうな表情が附いて來る、是は能く分ります。其次は癩病で、顔が獅子のやうになる、是は醫者の方では獅子のやうな顔貌と謂つて居ります。其次には百日咳―百日咳といふのは子供に來る病氣で、是は素人のお方でも、百日咳だと云ふことを診斷するのが難かしくない病氣であります、此病氣に罹りますと非常

に咳が出て、永く強く續きますと血液と淋巴腺と云ふものが顏に滯るさうすると、平生顏の脂肪の澤山

第六圖

百日咳顏貌



ない所に血液が集まつて、平生窪んで居る部分が高くなる、それは此寫眞を御覽になると直に分ります（寫眞供覽）是は西洋の子供が百日咳に罹つて居るところであります、どう云ふ所が判然して居るかと云ふと、平生窪んで居る部分例へば眼の緣などが膨れて居る、眼球も時々出ることがあります、つまり人間には平生窪んだ部分があるが、其窪んだ部分が出て來るから能く分かるのです、時には眼の兩側が出て居るのがあります、殊に瘦せた子供では直に分ります、咳をするのも、外の氣管支加答兒などゝ似て居つても、併し外の病氣と百日咳の場合とは、今申した顏の貌を覺えて居ると判然區別が付きます。

只今お話を致しましたのは身體内に病氣があるか、或は精神に病氣がある爲に變つて來る顏貌でありますけれども、其外無論顏だけに病氣があつて變ることがあります、其極く著しいのは顏面神經麻痺といふ病氣で、風邪などを引くと直に出て來ますが、是は澤山有るやうであります、この圖は右の方に顏面神經麻痺と云ふのがあつて（圖略す）つまり右の顏面を動かす神經が痺れて居る、それで此圖は四つとも西洋の婦人でありますが、極く安靜に、つまり眞面目にさして置いたのは此顏（圖を示す）です、是は眼が少し大くなつて下に下がつて居つて、一方には皺

が殘つて居るけれども一方にはない、比べて見ると左右不平等になつて居る、是は當り前の顔で、甚くなると此顔です（圖を示す）是は同じ病氣でも度が强いのです、さうして左が痲れて居る、所で此人に、試みに額に皺を寄せさせて見ると一方は働かない、兩方の眼を閉ぢさせて見ると、無論右の方は閉ぢることが出來ない、笑はせると云ふと、右の方は動かないで左だけで笑ふ、斯う云ふことになりますが、是等は顔其者に病氣があつて顔貌が變るのであります。

私しが今日此所に並べてお話致しましたのは、今申したやうに顔其者に病氣があるのでなく、其外に病氣があつて其爲に顔の貌が樣々に變ると云ふことであります、其變りまする工合が何時でも同じやうに判然出て來るから、其貌を能く覺えて居りますと云ふと一殊に幼い子供などで、物を言はれませぬ子供に對しては、外面から見て是は凡そどの邊にどう云ふ病氣があるかと云ふことの想像が付くのであります、醫者では無論之を以て十分に診斷が出來ますけれども、素人でも大概は分ります、それで顔の貌と病氣との關係の工合を只あらましお話し致したのでございます。

叢談

婦人の健康

醫學士　ふ　わ　生

苟も家庭をして幸福ならしめんと欲する婦人は、常に已れの健康に注意し、かりそめにも病氣の牀に呻吟せぬやうにしなければなりませぬ。よしや夫は濃やかなる愛情を傾けて、懇切なる看護の至らぬ隈の無い樣であつたにしても、家庭の幸福は、やゝともすれば一家の主婦の病身に其破綻を來し易いものであります、全體我々は相互に

健康に就て更に多くの野心を懷きたいのであります。技術家が如何にして精巧な作物に衆目を驚駭せしめんかと苦心し、運動家が如何にして深く神境に入りて妙技を發揮せんかと勉め、畫家彫刻家が如何にして天來の奇想を獲取し其靈腕妙筆を振はんかと欲する如くに、我々も如何にして健康を增進し家庭の幸福を多大ならしめんかと云ふことに注意し、之に就て大なる野心を懷くやうにしなければなりません。我が敬愛する多くの婦人は、セメテは

美容麗顏を得んが爲めに費すだけの熱心を健康增進のために費されたい

のであります。生來蒲柳の質であつても此熱心と野心とさへあれば、爲難に當つて屈せぬだけの健康をうるのは受け合ひであります。世に不幸を歎き病身をかこつ所の婦人は誠に少からぬ事ではあるが、其一半は慥かに斯かる熱心と野心とが足らぬ爲めでもあります。我々の身體は修養と練習次第で如何樣にも發達しうべき素質を持つて居るものであります。故に若い時には病身で困つたと云ふ婦人でも、中年の頃より誇るに足るべき健康となるものは少くない之に反して健康自慢の婦人であつても西へ落ち行く夕日の樣に、次第〱に衰へ行くものも多いのであります。これ畢竟は平素健康に注意するとしないとに由るもので、諺に云ふ

水泳をよくするものは水に死す

と云つた樣に、健康自慢が却つて身の毒となるのであります。今日の世に完全な健康婦人を尋ねやうとするのは、濱邊を逍遙してダイヤモンドを探すのと同樣、誠に心細い望み少き事であります。虛榮にあこがれ、美容に腐心するのが殊に若い婦人達の時代思潮で、肥滿長大な生理的健康體よりは、細身瀟洒たる美觀的婦人たらんを欲する傾向のあるのは誠に歎かはしき事であります。かゝる婦人の欲求が軈て一般の流行となり、鄙も都もおしなべて此懦弱虛榮の風潮に打ちふせられ

婦人の健康は見る〳〵其嶮崖に沈まんとして居ります。我々は社會の流弊に抗して、健全活潑なるべき風俗習慣を流行させ、かくて一般の健康を増進させたいのであります。蓋し健康は萬金を抛ても求むる事の出來ぬ無上の賜物で、平素無病の狀態にあつてはサマデ有難い物とは思はないが、一朝病の牀に臥せば其價ひの貴とさがシミ〴〵と感じられるものであります。婦人生活に於て此貴むべき健康を得るには

働き時間と休み時間との別

を立て、必ず之を嚴守して正確なる規律的習慣をつくるのが肝要であります。すべて何事によらず疲勞れる迄働くのは惡い。疲勞れぬうちに休息の方法を講じ、力に任かせ、健康にまかせて無理をせぬ樣に心掛けなければならぬ。今日ばかりの我身でない、明日ありと思へ。「急がばまわれ勢田のからはし」と云ふ事があります、多くの仕事をしやうとするには

明日と云ふ觀念

を以て長い計畫を立てなければなりませぬ。婦人の天地は一家であれば、働くも此處、休むも亦た此處であります。されば家の構造に注意し、空氣の流通と日當りの良き樣にするは、差し當り婦人健康增進の一策であります。日當りの良い室で新鮮な空氣を呼吸して居れば、氣質は自づと爽快になり、腹の立つことも少なく、頭腦も明晰して仕事の捗か取ること夥しきものであります。

平和なる一家庭の母として、幸福なる生涯を送るのは、凡て婦人の理想であります。家庭の平和圓滿が婦人の健康を補くる事は非常であります、故に巧みに家政を執り、一家に風波を起させぬ樣にするのも亦た婦人の健康策であります。然るに言を社交にかり、家庭の天地をせましとして

家を留守にする婦人

もあるが、思はざるの甚しきもので、徒らに時を費し、身心を勞し、病氣の種子を播くのみであります、かゝる婦人に多く見るは神經衰弱と、ヒステリーと

苦情と小言のみ多い若い老境とて、御當人は云ふ迄も無く家內一同の不幸は甚しきものであります。九尺二間せましと雖も、心ばせにして美はしく、身體にして健康なる婦人があれば、其家庭の幸福は如何ばかり、其家庭より溢れ出づる大なる感化は又如何ばかりでありませう。婦人は一家の內務大臣、大藏大臣、司法大臣、文部大臣及び夫の秘書官であります。此重大なる兼任を能く全うするものか、如何で更に外務大臣外交官たるべき伎倆を振ふの暇があらう。婦人の出シャバリは慥かに健康の損害であります。

猩紅熱の話

醫學士　河野衞述

私は今日茲で猩紅熱といふ傳染病の御話を致そうと思ふのであります、此猩紅熱は、主に小兒を侵す病でありますが、又往々大人も之れに襲はるゝ事があります、本病は、中々性質の惡い傳染病でありまして、色々の合併症を惹き起し、過經の可なり永い病で、そうして、其病毒の力も中々強くて、傳染力が著しいものでありますから、大體其恐るべき所丈けは、心得て置く必要があります。

猩紅熱は、主に秋と初冬に多く見る所であります、けれども、何れの季節にもあるものであります、大都會では、大抵四時本病の無い事はありませぬが、時々流行を見る事があるのです、猩紅熱は、三歳から八歳乃至十歳迄の小兒を侵す事が最も多く、三歳以下と十年以上の小兒には割合に尠うあります、是れから、私は

猩紅熱とは、如何な病氣であるかを御話し申しましよう、此れは、極く手短かに申すと、極めて性質の惡い、恐るべき小兒傳染病であつて、急劇に熱が出て、咽喉に疼みを覺え、身體の皮膚一面に、恰も朱を濺いだやうに、眞赤な發疹が出來て、此赤い發疹が去ると共に、熱も下り、その跡には、皮の剝け落

ちる一種の疾病であります。
それを今少しく詳しく御話すると、多くは、健康な小兒が突然侵されるので、例へば、夕方には、何の變りも無く、寢に就いたものが、其翌日になつて、急に病の前兆を發し、或は學校から歸り、或は、散歩から歸つて來る、此時に氣嫌が惡るくて、食慾が無くなり、眠くなり、頭痛を訴へ、何となく元氣が衰へ、或は、嘔吐を催し、通例咽喉に痛みを訴へるです、此れがマア本病の始まりでありまして、前驅症と申すのであります、それから一日乃至三日も經つと、體溫が昇り、三十九度以上の高熱となり、同時に、頸部から始まつて、全身に眞赤な發疹が出まして、其完全に出揃ふた狀況を見ると、丁度赤い「インキ」を吹き掛けたやうな有樣であります、顏面では、頰部に發疹しますが、口のまわりと、あごの邊には、發疹致しませぬ、此發疹は、通常四日乃至六日間位は續いてありまして、又此發疹のある間は、熱も去らず、三十九度乃至四十度といふ高い熱が續きます、そうして四乃至六日も經ちますと、此赤い發疹が全く消え去つて、此時分から、熱も次第に漸漸と下り掛けて、遂に、通常の體溫に復して參ります。
熱の出て來た初めに、咽喉を見ると、咽喉は、大變に赤くなつて、腫れて居ります、それで、飮食物が此所を通過する時に、痛みを覺えるのであります、手としては、咽喉に、少し黃味を帶びた白い物が附着して居る事もあつて、丁度實扶的里亞の義膜のやうに見える事もあります、それから、頸の淋巴腺も腫れて、押へると痛みを訴へます、此熱のある時或は發熱の初めには、惡寒戰慄と謂つて、ふるゑる事もあり、或は小さい子供であると痙攣を發する事もあります、食慾が惡く、氣嫌も惡くて、大變に渴を覺えて來ます、小便は、熱の爲めに、濃い色を呈し分量も尠くなつて來るのであります、それから常に頭痛がして、時としては、下痢する事もあります。
そこで此發疹が消散し、熱も取れて、平溫に復する

と共に、段々に氣分も良くなり、睡眠も充分に出來るやうになり、食慾も付いて來て、口渇も亦去つて了ひ、咽喉の腫れも取れ、赤くなつて居つたものが次第に常の狀態に復し、頸の淋巴腺の腫れも隨て消散し、小便の色も薄くなり、分量も多くなつて來ます、斯くして、發疹以後一週日から十日目位になると、殆んど病は治つたやうに見えます、併しながら是れから先きが、中々油斷がならぬのであります、病が治つたのであると思ふのは、大變な間違であります。

發疹が消え、熱も取れてから、先きに發疹した跡は皮膚の上皮が剝け始めるのであります、其の剝け方は、木の葉のやうに大きな形の儘で剝け落ち、大きいのになると、手掌大以上に上皮が剝落し、或は、小さな形で、糠の如くに剝ける部分もあります、そうして殊に手足の指に著しく此皮膚上皮の剝脫が見えます、此皮膚剝脫は中々永く掛るもので、大抵一週間から三週間位は掛ります、時としては四週間以上も掛つて、上皮の剝脫が了る事があります、此剝脫が終れば、皮膚は、通常の狀態に恢復します。

熱は取れ、發疹も去つても、油斷が出來ませぬ、それは、發病第二週日目位になると、腎臟炎を發して來る事が多いのであります、此猩紅熱に來る腎臟炎は、其性質が極めて不良で、其經過が中々永いのです、此れが一番恐るべき合併症なのであります、此腎炎は、多くは、出血性腎炎と謂つて、尿の中に血液が混つて出て來るのです、既に腎炎を發した場合には、熱が再び出て來る事もあり、或は、熱の出ない事もあります、又顏面、四肢、全身に水腫を發する事もあり、時としては、此水腫が極めて輕度の事もあります、何れにしても、猩紅熱の時分には、腎臟炎といふ事を忘れてはなりませぬ、それから其次に述べます合併症は、中耳炎であります、此れも猩紅熱の時分にヨク來る奴でありますから、注意しなくてはなりませぬ、此時は、是迄平溫であつた體溫が急に上昇し、非常に烈しい耳の痛みを覺え、夜分

此れが爲めに眠れない程に痛むものであります、そうして一二日も經つと耳からヅン／＼膿が出て來ます、或は、狀況に依つては、耳の鼓膜を破つて、中から膿を洩らす必要のある事もありますけれども、私の是迄見たものは、皆自然に鼓膜が破れて膿が漏れ出たです、膿が出始めますと、大抵熱も下つて來ますけれども、時とすると熱の中々去らぬ場合もあります、或は經過の惡いのになると、甚だ危險を招く事もあります、何しろ此中耳炎といふ病が甚だ恐ろしいものでありますから、決して油斷はなりませぬ、其他にまだ色々と合併症はありますけれ共、一番大事な合併症は、此中耳炎と、そうして、彼の腎臓炎とであります、猩紅熱は、ザツト上に申し述べましたやうな病でありますけれども、其中には、輕いのもあれば、固より重症のもありまして、重いものであると、發熱後數日にして急に死亡するのもあります、或は咽喉に甚しい病變を起すのもありまして、一々詳しい事は到底茲で話し盡せるものではありませぬ。

さて此猩紅熱の原因となるものは何であるかといふに、それは、今日迄の研究の成績では、まだ分つて居らぬのであります、矢張り一種の黴菌であろうといふ考へになつて居ります、何れにしても、猩紅熱は、傳染病であつて、衣服、器物、食物等は、本病傳染の媒介をなすものであります、又健康な人が此病毒を他に運搬する事もあります、それで英國では牛乳が、此猩紅熱、「ヂフテリア」、「チフス」の感染を媒介するものであると言はれて居ります、患者の病室に永く居て、病毒の混じた空氣を吸ふても、本病に感染する事があります、それから此病には誰でも罹りますけれども、麻疹程ではありませぬ、麻疹には、大抵の人が罹ると謂つても宜しい位でありますけれども、猩紅熱はそうではありませぬ、それから、創傷のある者、産婦等は、本病に罹り易いと謂はれて居ります、斯くの如くに、猩紅熱は、傳染する病である事は確實でありますが、然らば、如何な

る時期に傳染力があるのであるか、即ち發熱、發疹のある時か或は、上皮の剝落期かと言ふに、それは皮膚落屑の終る迄は、一般に、傳染力があるのであります、上皮の剝ける時には、立派に感染力がありますから、剝けた上皮を丁寧に集めて、決して、室内に散亂させぬやうに注意しなければなりませぬ。

豫防法　は如何にするかと申しますと、先づ猩紅熱に罹つた小兒は、嚴重に之れを離隔して、他の小兒との交通を絶つのであります、是れには、取急いで病院に入れて、跡を一切、室は勿論、器具、玩具等を消毒するのであつて、物に依つては、燒き捨てるのであります、又近所に猩紅熱の患者の居る時に、熱が出て、嘔吐を催したものがあると、スグに離隔して、醫師の診察を受けなければなりませぬ。

前にも申しましたやうに、猩紅熱の時分には、中耳炎や腎臟炎を併發するものでありますから、始めから、床に就かせて、嚴重に身體を安靜にする事が一番大切であります、床に就けて、安靜にさするこいふ事は、ドーモ人の氣に入らぬ事でありますけれども、病氣の豫後が恐しいから、致方がありませぬ、熱が出て居る間は、注意をしますけれども、熱が取れて、氣嫌も良くなると、中々此臥床安靜が守れぬものでありますが、猩紅熱の恐ろしい幕の始まるのは、ムシロ下熱後でありますから、決して安心は、出來ませぬ、此事は、甚だ大切でありますから、呉々も皆さんの御承知を願ひたいのであります、何れの病氣でも然りであつて、治り掛けの時に、看護が行き屆かぬ所から、病勢が惡くなるのが多うあります、それから食餌も、牛乳の如き流動體を與へて置くのであります、鹽氣のあるものを與へてはなりませぬ、幸にして、中耳炎、腎炎其他の合併症が起らずに濟んでも、四週日以上を經過しなければ、安心は出來ませぬ、それから、上皮の剝脱が全く了らない間は、決して床を離れる事を許さないのであります、猩紅熱患者の出た家族の兒童は、登校しない事にしなければなりませぬ、又患者は、四週日以上を

經過した後に、上皮剝脫の全く終つてからでなくては、學校に出てはなりませぬ、その外患者に接し、或は、近傍に居た者は、悉く嚴重に消毒を施すのは申す迄も無い事、看護をする人は、日日數回含嗽を勵行するのが宜しうあります、以上マア極く手短かに、猩紅熱の恐るべき事柄丈けを少し申し述べたに過ぎませぬ。

理想の獻立

B．F．生

『一體人間の生活は何の爲めであろうか？』、こう人に問はれたら、『勿論それは活動のためである』と、誰れしも答へるでありませう。若し人間が活動しなければ、生活は全く無意味で、靜卽ち死も同樣であります、活動と申しましても、精神的と肉體的との二ツがありますが、いづれにせよ、人間は大に活動しなければならん。ある倫理學者などは、『壽命の長短は活動の多少にあり、年月の大小にあらず』と說いて居ますが、私もこの說と同感で、雙手を擧げて贊成いたしますが、然かし、無茶苦茶な事をして、夭折してもよい、と云ふ意味で贊成しろと迫まらるるなら、それは御免を蒙ります、よし大隈伯の考への樣に、百二十五迄は生きずとも、『お前百なら、わしや九十九まで、共に白髮のはへるまで』、生きたい卽ち眠るが如き老ひの死が來るまで、活動したい、天國の樂園から迎への使者を送つて貰はない前に、死ぬるのはいやだ、それ迄に死んだならそれは皆病死であるから、壽命を全うした人と云ふ譯にはまいりません。それで、私達力の及ぶ限り衞生の道を守り、出來る丈け長く生き、出來る丈け多く活動しなければならぬと思ひます。

活動々々と申してもそれには何か資本がなくてはならぬ、汽車の運轉に石炭の必要な樣に、人間の活動には食物を要すると云ふ事は智者を俟たずして明かな事である、廣義で解すると、空氣なども食物の一

つであるけれど、今は普通の意味の食物に就いてお話をいたします。

肉食と菜食

御承知の通り、近頃の學説によれば、多く肉食するよりも菜食する方が頭腦が明快になると云ふ事であります、その上、青い物を食べると、血は清く、身體は強く、壽命は長くなると云ふので、今の監獄などでは、從前の方針と反對に、肉類を減じて野菜を増したそうであります、その結果を統計表で見ますと、だん／＼と監獄にできる病人が減つてゐる樣です。諸姉の家庭で獻立表をお作りになる時には、よく次に申す事に御注意なすつて、全家族一人も殘らず壯健で、和氣藹々麗日の如く、歡喜の聲四隣に溢るゝ樣な、スヰートなホームを作られたいと希望します。

ある日、三人ばかりの友人と打ち連れて、青山へ亡き友の奧都城に詣でゝの歸るさに、秋空拭はれた樣に美はしく晴れ渡り、春の樣な暖かい風に送られながら、累々たる墓塋の間をさまようて、ふと千草八千草、花のいろ／＼埋まるゝばかり手向けられた、とある墓碑の前へ出でた、すると友人は、『此れが不如歸の主人公浪さんのだ、誰れ云ふとなく噂が高くなつて、香華手向けて墓畔の苔に涙を濺ぐ人しげく線香の薰りの絶え間がない』と云ふ。かくと聞いてしばしは低徊去るに忍びず、悄然時の移るまで、浪子の過去を追想し、覺えず涙を絞つた事があります。浪子の病氣は恐ろしい肺であつたとか、青い物はその豫防の一つになる事を浪さんは果して知つて居たであろうか？又不如歸を書いたあの

蘆花氏は菜食主義の人

で、肉類生臭は一切食べられない、ある日、同氏を訪問して『何故ですか』と聞くと『衛生とか何とか云ふ六づかしい事は、醫者ならぬ私は少しも心得ませんが、然かしあの一本の鰹節でも、その源を尋ねて見れば、漁夫が大鰹を網で陸へ引き上げ、棒でそれを叩き殺して、その肉で作つたものと云ふ事、生

きたくて元の海へ歸りたいともがくものを、人が無理無殘に殺して作つたものかと思ふと、どうも心持ちが惡るい、まア感情なのです』と答へられた。蓋錢をやれば金はとれても、蛹を殺し絹布を製して、唯徒らに人をして綺羅を裝はしむるに過ぎない、だから養蠶は好かないと云はるゝ程の感情の人であるからでもありませうが、然かし單に感情からとのみ云ひ棄てられはしません。又蘆花氏の崇拜者でまた世界の偉人を以て今日思想界に敬慕されつゝある、かの

トルストイ翁

も又菜食主義の一人であります。尤も人の惡口に『杜翁は冬など露國に野菜の少ない時は、多大の費用をも顧みず、フランスより珍らしい野菜を取り寄せるなど、實に非常な贅澤家である』と申しますがそれはどちらでもよい、唯彼れは既に久しい前から菜食をやつてゐると申すのであります。

肉食を絶對的に主張するのは、勿論極端な說で、到底實行する事は出來ない、出來ないばかりでなく、滅多に眞似をするとそれは大變で、反つて大きな間違いをする樣になります、それで只感情問題だとのみ云つて打ち棄てないで、獻立表を作る時の參考とせられたいとお勸めをする、その例を申した丈けの事であります。いつか多摩川の邊りへ遠足でもなさる機會があれば、蘆花氏の寓居を粕谷村に訪づれて文學談なり、宗教談なり、田園生活の趣味に就いてなり、まづ話しの題は何でもよいとして、よく同氏の雄々しい體格と、同夫人の薄紅の頰に笑みを堪へて吾々を歡び迎へらるる姿とを御覽なさい、血色と云ひ、肉付きと云ひ、血氣に逸やる靑年も三舍を避けると云ふ位で、實のところ殆んど彼れは『理論上のみの菜食主義者ではないか』と怪しむ程であります、又かの

肉食を禁ずる遁世家

僧侶を御覽なさい、勿論生臭坊主の多い今の世ではあまりあてにはなりませんが、しかし研究すると申

中面白い事實があります、一寸素人考へでは、生物をいたはると云ふ大慈大悲の心からと思はれます、なる程その點も大ひに關係がありませうが、然かし實際はそれだけでない、尚はそれよりも奥深い秘密を探がして見ると、色々な生理學上、衞生學上の深い意味があります、果して釋尊がそれを知つてお初めなされた事かどうかは存じませんが別にこゝで釋尊の事は深く申す必要はありますまい、どうも肉食をすると頭腦が冷靜とならず、從つて禪定に入り又は念佛三昧の妙味に達する事が出來ない、けれども菜食すると此れができると云ふ經驗から肉食を禁ずるに至つたものではあるまいかと、吾々科學者の立場から、立論することが出來るのであります。

以上監獄、蘆花氏、トルストイ翁、僧侶等の例に見る如く、隨分此の菜食問題は衞生學上、興味ある研究問題であると思ひます、勿論かく申せばとて諸姉を囚人扱ひにするつもりでもなければ、また偉人や僧侶になれと勸める譯でもないのですから、そこは十分御安心を願ひます。

次にも一ツ面白い事實を云つて食物の撰擇の如何に必要であるかを申しませう。

食物が人間の性質に及ぼす影響は餘程ひどいものであります、アフリカの地理で皆て學んだ如く、炎熱石をも爍かすと云ふかの内地では食鹽が金錢に代用されていると申します、この地方の人民は、殘虐暴戾至らざるなく、强肉弱食、獰虎豺狼と何の擇ぶ所もない、これは食鹽が關係しているのではあるまいかと思はれる、又海邊に棲む漁夫は言葉遣ひ荒らく、且つ氣質が粗暴である、之れに反して、山地に平和を謳ふかの樵夫や農夫などは柔和溫順である、漁夫と農夫との生活、一ツは怒濤雪を崩して萬雷吼ゆる海岸に食鹽多き魚肉を食らひ、一ツは霞の衣に包まれつゝ、平和の神の溫かき胸に抱かれて、淸新なる野菜に育てられる、而かして一ツは粗暴一ツは溫順、これから私共は大ひに學ぶべき事がなくてはならぬと思ふ、姉々しかるべき

男子と、温順なるべき女子とは自らその食物にも差がある可き筈と思はれます、これで人は食物から如何に大なる影響を蒙るものかと云ふ事は十分おわかりになッた事と思ひます、それでは次には食物の經路に就て述べませう。

（以下次號）

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉

（三）活ける家の主人の居室（上）

主人は一家の主宰である、主宰の居室は一家の樞要なる所に位つて、其四壁も充分堅牢に造られ、又各室に連絡があつて一言を下せば直ちに命令の傳はるやうに仕組まれて居らねばならぬ。活ける家の主人である精神の居室は、實に

腦髓

と云ふもので、家の最上層である頭蓋の中に位し、身體の各部とは神經と云ふ電線によつて連つてゐる。故に一と度び命令を下せば、直ちに身體各部より遂行されるものである。生理學、解剖學、病理學、精神病學等の進歩に連れ、斯かる事實の漸く行はれないやうになつたのであるが、昔は大に精神の住所を知るに困難したもので、彼の兼行法師の如きは『思ふ事云はぬは腹膨くるゝ業なり』と云ふて、精神の住所を腹腔であると思つて居た、西洋諸國の人々は心臓が精神の宮殿であると信じてゐた。或る解剖家の如きは刀を執つて屍體の解剖をなし、頭の腦天から足の爪先き迄殘る隈なく穿鑿したが、ドーモ精神らしいものが見當らないので甚しく失望したが、動脈が臨終の際の最後の收縮で、血液を殘らず靜脈に送り出し空虚になれるのを發見し、之が精神の住所であつたに相違ないと斷定したやうな滑稽な話しもあつた。人が萬物の靈と云はれて、他の動物に超越して居る所以のものは實に腦髓の爲めである。犬の肝臓も、馬の胃の腑も、鳥の心臓も、牛の肺も人の夫等と全

く違はぬ、或は之より健全で完備してゐる。が、腦髓に至つては全く之と反對で、如何なる動物と雖も人に於て見るやうな精巧複雜なる構造と、妙巧不可思儀なる作用とを持つて居らぬ。腦髓は斯くも重要で、而かも頗る柔軟なものであるから

頭蓋と云ふ金城鐵壁

から圍まれてゐる。頭蓋には六層ある。

第一層が毛髮

で、腦髓を保護する作用をなす事著しい。毛髮が密生して且つ長く伸びてゐれば、外力が働いても頭の地を傷ける事が出來ぬ。西洋でフートボールの競技者は、球が當つても傷を受けない豫防として、毛髮を長く伸ばして刈り込まぬ者がある。寒さ暑さを防ぐにも毛髮は頗る重要なものである、故に小供の頭などを無暗に剃刀を當てるのは宜しくない、好んで腦を危くするのと同樣である。

第二の層は頭の皮膚

である。頭の皮膚も他の部の皮膚と其構造は違はぬが、更に厚く緊密に出來てゐて、無數の毛髮を生やし、多數の皮脂腺があつて多量の油を分泌し、又多くの血管があつて其榮養を良くしてゐる。

第三層は頭蓋骨

で、八個の堅い滑かな骨から成り、其中に頭蓋腔を造つてゐる。而して各頭蓋骨は恰も二重の壁の樣に、内外二枚の骨板が重なり合ひ、其間に板障と云ふ物質が挿つてゐるから、他の部の骨に比して頗る強い。昔しは

アトラスと云ふ壯漢

があつて世界を頭と肩の上にのせ、擔いで立つたと云ふ話しがあり、今日も世界地圖の事をアトラスと云ふが、人間の頭蓋骨も同じくアトラスと云ふ骨の上に載つてゐる。而しながら此骨は一つの小さな環の樣な骨で、昔しのアトラスの樣な大男でない。アトラスから下の方が所謂頸で、頸の周圍には澤山の筋肉がついて居り、頭をして或は上に向ひて天を仰がしめ、或は下に垂れて地を望ましめ、或は左右

前後に廻轉させる。頭蓋骨から内部にある三層は

硬膜、蜘蛛膜及び脈絡膜

で、硬膜は緻密な纖維層から成り腦髓の形狀を其儘保持するの役目をなし、脈絡膜は腦髓に血液を供給するの務めをなす爲め多量の血管を含んでゐる。蜘蛛膜は蜘蛛の巢の樣な弱い纖維膜であつて、多少移動しうる餘地を腦に與へるものである。此膜は原語でアラヒノイドと云ふが、之に就て思ひ出さるゝ面白き話しがある。

昔し〳〵アラヒノイと云ふ頗る紡績の巧みである皇女があつたが、ミチルパ女神の逆鱗にふれる事があつたが爲め、遂に體を蜘蛛に變せられたと云ふ事である。以上三層の間には液體がある。脈絡膜と腦との間、腦の各細胞の間にも亦た液體が滿たしてゐて絕へず腦を保護して居る。坐臥進退の都度頭部が動搖震盪しても、聊かも腦に害を及ぼさぬと云ふは實に此保護裝置のある爲めである。

フランスの大文豪ミケレー氏は腦を形容して『美はしき白きカメリア花の如し』と云ひ、更に

腦は『花の中の花なり』

と云つたが、其外見ばかりでは、如何なる文字を以て之を形容しても足らぬのである。腦の表面は灰白色で、數多の起伏凹凸を有してゐる。之を

腦の溝及び廻轉

と云ひ、智者學者大人では著しいが、愚者小兒動物等では著しくなく一般に滑かである。凡て智識才能の發達に連れて腦の溝は深くなり、其廻轉は著るしくなる。古來かゝる關係から人の賢愚は一に腦の廻轉及び溝の著るしいか、著るしく無いかに由るものと稱せられた程である。蓋し腦の廻轉が大きく、其溝も深かければ其部分の神經細胞も亦た能く發達して居るべき筈で、從て此細胞中に含まれてゐる所謂神經の力も多く、動作力若しくは思考力を生ずる事も亦た大いなるからである。

腦の大小輕重

も人に由つて違ふ、初生兒の腦重は男子なれば三百三十瓦、女子なれば三百瓦位であるが、成人するに從ひ之が漸次增してくる。故に腦髓の大小輕重は人の利鈍賢愚を判別する一の根據となる。諸動物は一般に其腦髓が人よりは輕小であるから、其智識も人に及ばないのである。動物中でも腦の發達してゐる猿の樣なものは、他の發達してない豚の樣なものよりは遙かに賢こい。昔から『女子と小人とは養ひ難し』と云ふ諺があるか、解剖學上から見ても腦重が平均成人の男子なれば千三百七十五瓦あるが、成人女子では千二百四十五瓦しか無い。此く云へば或は女子諸君より、有髯男子を後に瞠若たらしむべき幾多才媛の例をあげて、抗議を申し出さるゝかも知れぬが、それらの人及び我が敬愛する衞生會員諸姉は何れも例外で、原側としてはルデンゲル氏の云ふた如く、男女腦量の相違は全く先天的のものである。

小供の時は一般に智慧が足らぬが腦量も年齡に一定の關係を有してゐるもので、二十歲より三十四五歲迄の間が最も重く、五十の坂を超すと漸次下り坂となつて減少する傾向がある。

文明と腦量との關係も亦た欺く可からざるもので、文化の民は腦重が重く、尙ほ其進歩に連れて漸次增加して行く事は、有名なブローカ氏が各年代の巴里市民に就て證明した所である。シュミッド氏も古今のエヂプト人種につき測定したが、其結果は漸次文明の衰頽するにつれ國民の腦重も減ずると云ふ事である。失禮な申し分であるが、田舍漢は都市人よりも腦の目方が輕いそうです。

人種の異同も腦量に關係があるが、幸に我々日本人は歐米の諸人種に比し、少しも劣つて居らぬそうである。長き歷史を有し、古き文明を有し、今や一躍して列强と肩を比する樣になつたのも固より當然である。一般に

體重及び身長の大なる者は腦量が多い

のが通例であるが、之を比例にとれば却つて小人の方が比較的重い譯になる。例之へば動物に就て腦量と體重との一二の比較をとつて見れば

象の腦量は體重の五百分の一
羊は　三百五十分の一
鷹は　百六十分の一
鼠は　百四十分の十
鴿は　百三十分の一

等である。故に人間では小兒及び女子の方が割合ひに重い事になる。

先きに述べた如く男子平均の腦量を千三百七十五瓦とし、之を標準として古今の學者名士達の腦重と比較した一二の例を示せば左の通りである。

詩人バイロンは三十六歳で　千八百〇七瓦
數學者ガウスは七十八歳で　千四百九十二瓦
哲學者カントは八十二歳で　千六百瓦
詩人シルレルは推測により四十六歳で　千五百八十瓦
詩人ダンテは　千四百二十瓦
解剖學者クヒールは六十三歳で千八百六十一瓦

等で、ダニエル、ウェブスター、アベルクロンビー氏等の腦も殆ど六十四「オンス」、或は殆んど四「ポンド」あつた相である。故に腦の重い者は一般にエライ樣であるが、又此說を打ち破るべき事實もある。羊と云へば頗る魯鈍な動物であるが、前例に照らして見て怜悧な象よりは比較的の腦重が多い。又有名な

化學者リービッヒは七十歳で　千三百五十二瓦
生理學者チーデルマン七十九歳で　千二百五十四瓦
生理學者ハーレスは四十歳で　千二百三十八瓦
雄辯家ガンベッタは　千二百四十六瓦

であつた。故に腦重以外、腦量以外に賢愚の別を生ずる要素

が無ければならぬ。元來腦は種々なる部分より成立してゐるが、精神作用を司る所は其表面の皮質のみであるから、他の部分が如何に大きく如何に目方があるからと云つて、此部分が少さければ精神作用も從つて亦た鈍いわけである。然かも此部分中にある神經細胞が分量も多く、質も良好なるものでなければ敏捷活潑なる精神作用を營むことが出來ぬ。腦の廻轉の多い者は怜悧であると云ふのも、要するに廻轉が多ければ腦の皮質面も亦た大きくなるからである。故に詮ずるところ、獨乙の諺にある。『黄金は石よりも貴し』とか『懐中時計は柱時計よりは精巧なり』とか云ふ様に、精神作用の鋭鈍は腦の輕重大小のみで決すべきものでないと云ふ事に歸著する。無論或る一派の學者の云ふ如くに、『蟻は深林中にありて能く難問題を解し、又能く數學上の計算をなす』とか云ふ事は信ずるに足らぬ。又或る詩人が諷した様に『猿は人の様に能く語り得るけれども、言語を發する如く愚かで無いから、只眞似をするのみである』とは、餘りに極端の話しで、矢張り彼等動物は腦の發達が充分でないから、人よりは愚かであるので、俗に云ふ『毛が三本足らぬから』と云ふ譯では無い。

毛髪のたしなみ（承前）

H．K．生

毛髪に塗る香油の注意　毛の根には各個必ず皮脂腺と云つて膏を分泌する装置のある事は前に申し上ました、毛髪と毛髪の地とは初中此膏で塗られてしなやかに軟くなり、特に毛髪は是が爲に彈力が強くなつて滅多に折れたり裂けたりする様な事がなくなり其色澤もよくなるのであります、尚此外に油氣のある處は汗の様な色々の不潔物が外から組織の中に入込難いので自然夫等の防禦ともなります。ですか

ら頭髮に油氣のあると云事は毛髮に取つては甚だ大切の事であります、而して是は獨り人間許でなく他の動物取分け水禽類では此種の腺の分泌が極めて盛んで夫れが爲に羽毛が何時も美しく餘り汚れも又濡れもしないのであります、若し身體に何かの故障があつて此皮脂腺の分泌が不足致しますか、或は餘り度々髮を洗過ぎて油氣が不足致しますと、毛髮は彈力がなくなつて折れ易く、色澤も惡くなつて妙に赤洒け、猶其樣な狀態が長く續きますと遂には毛髮の養ひが衰へて追々細く短かくなつて仕舞ひます、近頃の西洋風なおぐしにお上げになる方は日本風な髷に比べて毛髮を損める程度の誠に少いにも係らず、如何か致しますと毛の色が赤洒けて取分け額の生際などの毛が短かく細くなる樣な事のあるのは、畢竟古風な髷よりも髮洗が手輕にできるのと、油をお用ひになる事が前に比べて少いので髮の油氣の不足する爲だと存じます、其他の赤髮に油氣がありませぬと頭皮を溫め過ぎるものでありますが適當に油を塗て置くと俗に申す『頭を冷やす』働きもあつて頭の爲にはよいのです。

夫れで毛髮に塗る油は如何なのがよい乎と申しますと、第一毛を軟かにし且つ其色澤をよくし、第二には成るべく腐敗れたり分解したりせぬものを撰ぶのです、髮に油を塗る事は古今東西を通じて誠に廣く行はれる風俗で、從て其油の種類もどの位あるか知れませぬ、我國では以前は水油とか椿油とかが重に植物製の油が使はれて居たのでありますが、近來では西洋から色々の香油が輸入せられて或は石炭や石油から取る鑛物製の油、或は牛や豚の脂から取る動物性の香油などが盛に用ひられる樣になりました、併し玆にお斷りを致度のは、其原料は何にせよ總て西洋から輸入せられる膏は元來西洋の婦人の毛髮に適する樣に拵へたものでありますから、充分穿鑿もせずに我國の御婦人が西洋人向の髮油を其儘そつくりお使になると云ふ事は如何なものでありませう、中には確かに久しい間に追々毛髮の澤がなくなつて赤

毛となり又縮毛となる樣な事もありますから之は充分御注意が大切だと存じます。

植物性及動物性の油と鑛物性の油とのうちで何方が毛髮の爲になるかと申しますと何れも一長一短はあるのであります、植物性及動物性の香油は勿論割烹にも用ひます位で腸や胃の粘膜は勿論、皮膚や毛髮の間にも吸上られて其實質迄滲透る性質がありますから其組織の深い所迄限なく行渡つて毛を滑らかに軟かくするのであります、之に反して鑛物性の油では皮膚や毛髮の組織の中へ泌み透る働きが誠に少く、特に或種のものは組織內の蛋白質に作用するのと水を吸取る性質があるので却て皮膚の上層を引き縮めて堅くし毛も亦硬くなつて折易く色澤も惡くなる患があります、此種の香油は一寸使ひ初めは粘氣が少いので始終さらさらと洗髮の樣な心持で居られ、夫に初めは毛の光澤も出、又毛を堅く保つ處から鬢や前髮をうかすには誠に都合がよい樣ではありますが毛髮の爲には餘りよろしい方ではありませぬ。

次に髮油の腐敗り易い事を考へますと此點に於ては鑛物性の油が最も丈夫で久しい間塗て置ても滅多に腐敗する樣な事はありませぬ、之に反して植物性及動物性の油は直に腐敗に傾き易く、之が分解致しますと誠に不愉快な臭氣を放ち、其上同時に油から分れた脂肪酸と申すものが頭の地や毛髮の根を刺戟して久しい間働いて居るうちには遂に頭の皮膚の慢性充血を起して毛の薄くなる樣な事があります。

恁云風に各種の香油には夫々其長所と短所とがありますが、最も安全なのは矢張最も古くから用ひられて居る植物油の中で、特に最も腐敗する事の少い椿油あたりを用るのが一番よく、そして折々髮洗其他の手當を充分にするのが最もよろしい、西洋の婦人は髮洗の後で直に扁桃油を指頭に濕らして毛の根毛の地に揉みこむ樣にする相でありますが、斯云場合に代りに純良な椿油をお用ひになるのもよろしいと存じます。

頭髮を結ぶ注意　頭髮に飾りをする事は最も昔く

行はれて居る風俗の一つであります、其中でも我國の御婦人のが最も手數が懸て居て、結上げたおぐしには海から取上る瑇瑁珊瑚、山から掘取る黃金、白金、夫に花簪や手絡などゝ、殆ど世界の最も愛らしき物の總てを擧げて髮の飾りに供て居らるゝ樣であります、支那でも髮を香油で固める事は大分我國の風と似ては居ますが夫でも我國の御婦人程の事はありませぬ、西洋になりますと髮の結方は一層淡泊であります。我國でも髷を結ふ樣になりましたのはずつと末世の事で昔は上下共に皆髮をうしろに垂らして今のおすべらしに致し夫に美男蔓を塗たものだ相であります。

扨此髷を結ふと云事は毛髮の爲から申せば餘り良い事ではないのです、結髮時代以前の繪卷物などに描てあります女性を見ますと何れも皆其頭髮が身の丈に比べて非常に長い樣に思はれます、其他當時の婦人の風俗の事を書た物を見ましても矢張其時代の女の髮の長かつた事が推測できるのです、私は結髮時代になつてからの婦人の毛髮がそれより以前の婦人の毛髮に比べて大變に短かくなつたのは矢張數百年を重ねて現れた結髮の弊害であらうと存じます、其證據には平生餘り髮を結ふ事もなく油も塗らず無造作に引結んで居る田舍の女子などが、丈に餘る樣な美しい髮を持て居るのを見ても分ります、其他我國の御婦人は西洋の方に比べて割合に早く頭髮の薄くなるのは之も確かに髮を結ふ弊害であると思はれます。何故髮を結ふのがよくないかと申しますと其理由は二つあるのです。

第一には頭の地を淸潔にする事が出來ぬためであります、髮を結ふのには如何しても束髮や何かよりも澤山の香油を使ひますし、夫に外から附く塵や頭の汗やふけが一所になつて分解を起し、香油の腐敗たのは頭の皮膚を強く刺戟して其爲絕えず頭皮の充血を起し、永年の間には漸々毛の發ひが惡くなつて脫毛が多くなり遂には頭の地が見え透く樣になるのであります、又美しく結立つたおぐしは無暗に手を入

れる事も仕難いので自然憶空になつて特に髷の下が不潔に成り易いものです。

第二には髷の根を堅く締めたり、髱鬢前髪などを結えるので自ら毛髪に無理ができるためであります、中にも根の前側に當る部分の毛は只窮屈に締められる許でなく、髷全體の重味が夫に懸る様になつて强く後ろに引釣られ、其地の皮膚は慢性に充血をして荒らされ結締織の增生と申す事が起り、永い間には漸々毛孔が淺くなつて毛髪も皮脂腺も枯死して仕舞て毛が全く脱け落ち皮膚は彈力がなくなつて赭い色を呈するのであります。

俗につれ禿と申して髪の根の所が薄くなるのは全く前の二つの原因から起るのでこれは確かに髪を結ふための弊害であります、ですから毛髪のためから申せば髷はなるべく毛に無理のできぬ種類のものに結ひ、根はなるべく廣く取る様にし、又中差や髢入髪なども餘り重くならぬ様に注意するのが大切です、其外一時髷をお結ひになつた後では暫く亦束髪にすると云様に時々風を代へて、始終一つ所の毛髪許が揉まれる様な事はさけて成るべく交る〳〵毛の根に休養を與へて夫れを傷めぬ様にしなければなりませぬ、西洋の婦人に禿髪の少いのは、平生の髪の結様が淡泊して居る許でなく丁寧な方になりますと夜分寢ります時分に、毎夜必ず毛を解て輕くせらるゝ相であります、從つて頭の掃除も手輕にでき髪の爲には誠に行屆たものであります、我國でも當節はおぐしの工合が大變西洋趣味になりましたので、前に比べましては毛髪の養生と云事にはどの位よろしいかも知れませぬ、併し久しく束髪などに結つてお出になつた方が　偶々髷にお結ひになりますと前側の毛が誠に短かくなつて居て、前髪を取るのに誠に工合が惡いと云樣な事を聞きますが是は決して束髪其物の惡い爲ではなく油氣の不足から起るのである事は前にも一寸申上た通りであります。

縮れ毛癖毛の注意　詩にも楚々たる淡いろの輕羅の上に、豊かに垂れて渦捲ける金髪などと申して、

西洋では毛の工合よく縮れて居るは寧ろ美貌の一つとして尊び、或は焼たこてを當てたり又毛の尖を蠟燭の火で焼いたりして縮らせる位であります、併し我國の御婦人では縮れ毛癖毛は大禁物で、毛髪は成るべく素直にすらりと伸びたのに限るやうであります、前にも申上た通り毛の根は斜めに深く眞皮の中までも植つて居るのでありますが、夫が私共では毛の根が皮膚の内にある間でも眞直に伸て居ますが、西洋の人では毛の根が皮膚の下にある間から既に螺旋狀に捩れて居り、夫が追々成長して皮膚の表にせり出すに從ひ矢張縮毛となるのであります、我國の方では元來毛髪の眞直なのがほんとうでありますが縮毛の方の中にはどうか致しますと西洋人と同じ様に皮膚の下からもう毛が螺旋形になつて生えて居る方もある相です、或は亦縮毛の甚しいのになると一つ毛孔から毛が二本も三本も生え、其他一條の毛が澤山に枝分れさして居たと云様な報告もあります。毛は常に皮膚の表面から斜めに生えて居るもので、其方向も場所によつて夫々一定の規則があるので、假之ば頭ではつむじを中心にして皆下の方に向て生えて居るのであります、ですから此様な細い毛髪にも皆裏と表との區別がある理です、髷を結ふとか、絶えず帽子を被りつけて居ますと永い間には毛孔の向きや毛の生力にも多少の變化を來しますが、夫でも髪は毛孔の自然の方向に向きたがるもので之が丁度癖毛になるのであります。

斯云ふ風に縮毛や癖毛はどちらも性來で、毛の發育の不均等な事、或は毛孔の向きの正しくない事に起るのですから之を根治すると云事は誠に難かしいのです、之に對して行はれる普通の手當は先づ次の物位でありましよう。最も手輕なのはたをーるを熱いお湯でしめし、夫で暫く毛を捲て蒸す様にし軟になつた處で充分引伸して次の油を塗るのです。

ぐりせりん	三〇瓦
酒精	一〇〇瓦
水	七〇瓦

或は之に猶少許のあらびあ護謨を溶かした物を捏り引きつめる様にして髪を結ふのであります、或は前の様に引延した上でふのりなどの濃い汁を塗り附け、充分乾くのを待て油を塗り髪を結ふ方もあります、其外程よく温めたこてを當てゝ毛の延た處で同様に油を塗て髪結する法もあります、併し是は餘り熱過ぎぬ様に注意を致しませぬと却て毛を傷める様な事があります。

此外世間では同じく癖毛と呼ばれて居ても、毛孔の向きの不規則なのではなく髪の餘り細く柔か過る爲に癖のできる事がありますが、是は毛の根のまつさあーじをするか、或は冷水摩擦を行つて毛を丈夫にし堅い油を用ひるより外ありませぬ。

毛深か過ぎる箇所の手當　御婦人の頭髪は長くて濃い丈け結構ですがむく毛腋毛などは餘り目立つと却つて見苦くありますから是等は色も淡く且つ餘り濃くない方がよろしいのです、眉毛や睫も餘り甚く濃いのは、何所ともなく優しく婉やかな女性の美にふさはしからぬので之も程よい濃さで毛並の美しく揃ふて居るのがよろしいのです、是等はもともと生理的にも毛の在るべき筈の處なのですから夫が少し許り濃過た位では別に大した障にもなりませぬが、甚しいのになりますと毛のありすぎる一種の畸形があります、ロシアで『犬人』、獨逸で獅子肌など申しますのは、普通の人で云むく毛が非常に長く濃く生成したもので身體全部が毛だらけになり、丁度狆か何ぞの様な外貌となるのであります、現に獨逸の或動物園では其一人が園内で自身の肖像を刷つた紀念はがきを賣て居る相であります、畸形とは申しながら一寸人と動物との區別も附兼る有様で誠に淺ましく憫れなものだ相であります、此他亦身體の全部にてはありませぬがお臀の上に毛の密生して居る人を見受ける事がある相です、獅子肌と云ひお臀の毛深いのと云ひ如何して斯云ふ事が起るのであるかと申しますと、或學者の説では人間も元は他の動物に似て毛深い質で其毛で以て衣服の代理をして居たの

であるが、人が追々進化するに從つて色々な衣服や被物を工夫する樣になり、夫が爲に衣服の代りをする毛衣も其必要がなくなり、此進化の大律が幾萬年幾百萬年も繰返して居る間には、遂には私共の樣に體には只薄い、、むく毛を止める位な事になつたので、偶々現はれるあの樣な毛深い畸形は何か發育の工合でずつと大昔の毛深い時代の人種の紀念を止むるものだと申す事です。

、、むく毛と申す物は人によりて多少の濃さ薄さはありますが一般に御婦人の方が男子に比べて目立ちませぬ、而して是は極めて細く柔かである事は勿論、其色も成るべく皮膚の色に近く淡い茶色栗色などの方が一番目立たなくてよろしいのです、世の中には亦白百合の精が凝つたとでも云ふ樣な美しい肌の方でありながら、一番頻繁に見るのはうなじから懸けて背の中央、次には背から上腕の方などに一部を限りて大分硬い濃い毛の生えて居る事がありますが、之は體質の弱い方に折々見受けるもので、醫者の方では結核性疾病などの下地がある方の目印さして居る位であります、其他亦舌の所々に長い濃い毛が生える樣な珍らしい病氣がありますが是等は餘り專門的に亙りますから詳しくは申上ませぬ。

此外折々御婦人の方から伺ふ事のあるのは御婦人の口の周りのむく毛が濃く目立つて丁度お髯の樣に見える事であります、尤も外國では其昔婦人が髯を貯へた時代もある相でありますが、それとても徒らに男子の風を學ぶ似眞女子の仕業で決して貞淑な婦人のせられた風ではない相であります、實際に婦人の口の周りの毛の薄黑く髯の樣に目立つのは決して見良いものではありませぬ、次に婦人のお髯よりも一層頻繁にあつて度々御尋ねを受けるのは、俗に毛斑と申して身體の何處と限らず黑い毛が集つて密生して居るのであります、中にも小さなあざやほくろがあつて其處丈に毛深く生えて居る場合が最も多い樣であります、ぼつかちおが閨裡に於ける美人を描いた名文に、雪の樣な肌の胸に一つの小さなほくろが

あつて、夫れに一條二條の黄金色せる柔毛が生えて居たと云樣な事を書て居ますが、夫は單に詩文の上の事でほくろに毛の生えたのなどは實際は餘り見よいものではありませぬ。

贅毛を除くのには如何すればよい乎と申しますと大凡次の四つの方法があります。其内でも剃刀で剃るのは夫が刺戟となつて却て丈夫な毛ができ、毛拔で拔くのは其近所の毛が益々濃くなり、何れも永久の方法ではありませぬ、併し第三の軟膏療法は大に有效で之は毛のある場所に、硫化砒と澱粉と煆製石灰とを混た粉末を微温湯でお粥位に解たのを塗り、十分許じてから洗ひ落すのです、併し是も餘り久しく續けて使ひますと却て其周圍に毛が濃くなる樣な事がありますから續けて用ゐぬ樣に致し且又洗落す折にも充分丁寧に洗落さねばなりませぬ、此藥には毒な物が入て居ますから總ての指圖は醫者に就てお尋ねになるのが安全であります、最後に根本的の手術としては電氣を以て毛の根を焼き滅すのであります、電氣の機械の積極の方の端を背部にあて、消極の方の端には細い針をつけて置て其針でもつて毛の根の處をぷつぷつ突差すのであります、是は餘り痛い毛斑の手術としては隨分手數が懸りますが贅毛の發生を根本的に治療する點に於ては最も確實な法であります。

育兒

嬰兒の哺育

R.　H.　生

子供を有たるゝ婦人方で、必ず心得置かるべき事の數多ある中にも、分けて大切なるは子供の病氣の事であります。實際醫學上から見ては病氣と名づくべきものではなくて、普通の小兒が極く侵され易い病徴があります、之は一般の婦人方が普通經驗せらる

るところでありませう。してこの病徴たるや決して本當の病氣ではなくて、一時の發作に過ぎず、三四時間も經てば全く恢復して何の苦みをも感じないやうになるものですから、母たる婦人は豫て此事を御承知になつて居れば決して驚きなさるには及びません。如何に健康な小兒でも此種の苦痛に侵されないものは少ない位であります。

乳のみ兒は其母の健康狀態によりて、大に其健康及び發育に影響せらるゝものであります。幸にして母たる婦人が溫和で、自制力が強く、規律的で、過度に働かず、飲食に注意し、物に怒らず、身體頗る健康でありますならば自然に其子の健康も勝れ、發育も充分に理想的なることが出來、性質も至つて順良に保持せらるゝものであります。之に反して母たる婦人にして不幸にも性質がいぢけ、心に平和がなく身體の働作其度を失し、不規則にして起臥時なく、飲食に攝制なく、健康一向に勝れない場合には、其胸に抱かれ其乳を飲む小兒も、從つて其母より何の元氣も與へらるゝことが出來ず、健康も勝れず、發育も充分なることが出來ません。要するに小兒の健康は一に其母の健康狀態の如何によるものであります。

小兒に乳を飲ませうとするに當りて母たる婦人が餘りに疲れて居るか、餘りに興奮されて居るやうな場合には暫く見合せた方が良い。若しそんな場合に常の如く乳を飲ませますならば、其結果として往々其小兒を意地惡くなし、或は熱發させることがあります。母親が怒つて居る時に其乳を小兒に飲ますれば小兒は大變な病氣になる事があり、時としては其爲めに死ぬことさへもあります。少し大袈裟な言ひ振りではあるが、若し母親が其心柔和でなく、身體強健でないならば直ちに其嬰兒の神經に響きを與へて其發育を害し、健康を損ふことになります。

身體強健にして發育其宜しきを得たる嬰兒は、生後數週間は一晝夜二十四時間の中二十時間だけは眠つて過ごし、其睡眠中は極く靜かで自然であります。

而して殘りの四時間の中に乳を飲み、手足を延べ、發育成長するものであります。

生後數週間は嬰兒が乳を飲みながら眠るやうな事がありますから、日經ちの後の樣に規則正しく飲ませることが出來ませぬ。然し決して御心配に及びません、睡眠中は其胃が決して擴張しませんから乳を飲むことが不規則になつても、必ず一定量以外に飲み過ごして胃を惡くするやうなことはありません。生れたての嬰兒の胃には三四勺より多く容ることが出來ませんから、乳を瓶に容れて飲ませるやうな場合に(主として牛乳など)は、每度此分量で規則正しく與へねばなりませぬ。そして其適當分量が自然に規則正しくなり、之が習慣となれば、もう其分量以上には分泌されないやうになるものであります。

嬰兒の肝臟は、其體の大きさ及び他の諸器關の大きさに比し甚だしく大きいものであるから、右側の乳房で乳を飲まして居る時に小兒が苦痛を覺える樣な事が屢々あります。之れは肝臟の重量が一杯になつてゐる胃を壓下するによりて此苦痛を與へるのであります。故に右側の乳房で飲ました後で小兒が騷ぎ出す樣な事のある場合には、右の腕の下に足をあてて、左側の乳房で飲ませるやうにし、臥かせる時には右側を下にすれば其の苦痛を治することが出來ます。

嬰兒時代には病氣の徵候によりて起る精神上の苦痛と、肉體上の苦痛とは少しも關係を有つて居ません。休むにも時なく、眠ることも出來ず、哭き叫び痙攣性の感激によりて酷く苦められて居りながら、一晝夜少しも其何故たるやの徵候さへ見へない事もあります。また強健なる小兒に於ては苛烈しき神經的感激が、恰も普通の病氣にでも侵されたかと思はるゝ樣な徵候を呈する事も往々あります。之等の事は母親たるべき婦人が豫て心得て置くべき事であります。

小兒は元來大人よりも體溫が高いので、少し病氣にでも罹ればズツト熱が高まるから、豫て之を知らな

い人々は小兒が大した病氣にでもかゝつたかのやうに驚かさるゝものでありますが、小兒の時には些細な病氣にかゝつても非常に體溫が高まることがありますから、そんなに驚ぐには及びません。齒の生へる間、殊に齒が齦を破つて出る時には、大抵華氏の百四度或は百五度位の熱が出ます。三四歲位の强健な小兒は、毎朝九十九度位の熱が出ることは往々あります。幼兒の脈は睡眠中にあらざれば殆んど計ることが出來ません。

また小兒は大人よりも呼吸の度が速いことを知らねばなりません。二歲以下の小兒は一分間に三十回の呼吸を致します、即ち大人よりもヅット多いのであります。倘少しにても不快になれば更に呼吸の度が速められて來ます。

舌が白くなるのは通常發熱か、消化不良か、或は齒烈しき刺戟の徵であり、舌が紅く、乾いて、熱くなるのは口や胃の焮衝の徵であります。

小兒が烈しき熱に侵さるゝのは大抵は食い過ぎか、消化不良のものを食つた結果かであります。

私の經驗によれば消化の良い食物を適度に與へられ、休息を充分にする小兒は、齒が生へる時にもサシテ苦痛を感じません。稀に苦痛を感ずることがありましても至つて輕い痛みであります。齒が生へる時には必ず熱が發するものとは限りません。齒の生へる時分は小兒の腦は著しく啓發されつゝある時でありまして、胃が適當に其作用をなさず、或はいやが上にも無茶につぎ込まれると云ふ風であると、其結果腦及び各組織が刺戟を受けて遂に熱を發するやうになるのであります。通常大人の腦は全身の大さの四十乃至五十分の一でありますが、齒が生へ始むる頃の小兒の腦は、其體の大きさの八分の一と云ふ比でありますから、些細な攪亂でも直ぐに心身に刺戟を與へるものであります。

食べた物を吐く事は、若しそれが長く續くものでなければ單に體內の小變化に過ぎません。通常過度に積み込まれた胃の重荷を輕減して居るか、或はいき

せきまきて食ひ込んだ食物が胃の中で無茶苦茶に攪亂されたので、それを外へ出して居るのであります。また餘りひどく小兒を搖り動かしますと胃の中を攪亂するばかりでなく、腦を震盪して甚だしく之を刺戟しますから、ひどくは之を搖らないやうにしなければなりませぬ。

食せ過ぎたとか、不良の物を食はしたとか、又は齒が生へかゝつて居るとかを思ひ出す間もあらせず、急に發疹の出る事があります。

若しや小兒が痩せ衰へて靑白く、大きくもならないやうな場合がありますならば、それは其食物が同化して居ないのでありますから、早速其原因に注意せねばなりません。そして早速其食物を可良なものと變へねばなりませぬ。

小兒の皮膚が擦り剝けるのは、通常手巾を取換へる時に能く乾いて居なかつた爲めか、または濕つた手巾を餘り長く換へてやらなかつた爲かであります。消化不良も皮膚の剝ける原因となります、之を治するには食物を變へるか、または適當の藥を與へなければなりません。

嬰兒は何か原因なしには決して泣きません、無論母か子守りか側に付い居て貰いたい爲めに泣くこともありますが、其哭き樣により、病氣の爲めか、氣持の惡い爲め苦しんで哭くのかは容易く聞き分ける事が出來ます。

嬰兒は常に多量の水分と新鮮なる空氣とを要します、故に之が保育の任にあるものは毎日適度に之等を與へねばなりません。また缺乏を感じた時には嬰兒の方で哭き叫んで其要求の意を訴へます。嬰兒は毎日戶外に連れ出して心地よげなる新鮮の空氣を呼吸せしめ、また屢々戶外で眠らすこともせねばなりませぬ。私の知つて居る一人の小兒は其初め至つて微弱な體であつたにもかゝはらず、常に乳母車に乘せられ、體を暖く包まれて、毎日二回宛睡眠の爲めに玄關の外に寢かされて居たところが、間もなく大層丈夫な體となりました。無論上には風のあたら

ないやうに輕い被覆をせられて居ました。

牛乳で育てられる嬰兒が秘結する事がある場合には其乳に食鹽を一摘み入れて飲ますれば往々全治する事があります。

嬰兒には何時も充分暖かなやうに著せて置かねばなりませぬ。さりとて著せ過ぎてはいけない。何時も其著物は能く乾いて著心よきやうにして置かねばなりません。また食物を適度に與へ、其心身を攪亂しないやうにし、其睡眠を妨げないやうにせねばなりません。斯くしてこそ其報いとして小兒の心も健康も共に勝れて日増しに幸福と愉快とを増し加へらることが出來ます。

育兒瑣談（其三）

H. S.

（三）母乳と牛乳

小兒の榮養としては、母乳に優るものゝ無きことは前にも述べた如くであつて、これが自然である。人工榮養で育てた小兒が、母乳で育てた小兒よりもその死亡する數が遙に多いのを見ても、容易に知ることが出來る。

獨逸のある學者がしらべた處によると、小兒の胃腸病に罹るもの百人中、八十人から、八十五人までは牛乳の如き人工榮養によるもので、殘る僅かのものが、母乳や、乳母の乳で育つたものだと申すことである。

然らば、人乳と牛乳との成分は、如何なにちがふのかと言ふと、次に示す如くである。この表は百分比例の分析表である。

乳汁	蛋白質	脂肪	乳糖	鹽類
人乳	二・〇	三・五	四・五	〇・一七
牛乳	四・〇	三・五―四・〇	四・〇	〇・四〇

右の表にも示す如く、蛋白質は、牛乳に於て其含量が、二倍にもなつて居るし、鹽類の含量も、ずつと多い、併し乳糖は、人乳の方が多い、それであるか

ら、牛乳を用ひる場合には、これをうすくして、更に砂糖を加えねばならぬ。

牛乳は、白色を呈して、不透明のもので比重は、一○三○乃至一○三五反應は、酸性か又は「アルカリ」性である。そして一種の臭氣を有して居る。其用ゐ方などに就ては、後に委しくいはふと思ふ。

(四)授乳者の注意

乳を小兒に與へる所の人が、たとひ生みの母たりと乳母たりとを問はず、苟も小兒を哺育する任に當る以上は、心を盡して、善き乳を、小兒に與へるやう常に深い注意を要する。小兒の生命は一に繋りてこの乳にあるからであるのと、一方には、乳の性質が身體や、精神の異常のために、容易に變化し易いからである。

今其注意を要すべき要點をあげて見れば、大略次の如くである。

○食物　單調なものを偏して食べる事はよく無い、又無闇に興奮性の強いものも宜しくない。自分が平素好んで食べて居るものを、時々交る〴〵に、適度に用ゐる樣にする方が宜い、が併し消化し易きものを選んで、平生の一斑衛生をよく固守せねばならぬ。先づ適當なるは、柔き肉類、卵、牛乳、豆腐、味噌汁、新らしき野菜などを用ひて好い。

○衣服　これは申すまでもなく、清潔にして、あまりに窮屈ならざるをよしとす。身體は、入浴によりて常に清潔を保たねばならぬ。

○空氣　塵埃等の甚しき不潔な場所は、これを避けて、成る丈け新鮮の空氣中にあつて、身體の運動も適度に行はねばならぬ、動くことに馴れた人が、俄かに靜にして居ることは、却て宜しくない、然しあまりに過劇に流れてもいけ無い。

○乳房　乳房は、小兒のためには、生命の流れ出づる門口であるから、最も大切に守護せねばならぬ。若し誤つて傷けた樣な場合には、速に處置を加へねばならぬ。

小兒に乳を與へるのは、身體の水分が、乳になつて

出るのであるから、自然に渇を覺える、されば、此場合には、湯、牛乳、砂糖湯等を用ひ、以て水分を補ふ、茶、珈琲の如きは、成るべく薄きものを用ゐる様にし、「アルコホル」を含んだ飲料は之を避けるを佳とす。

乳兒と授乳者との間にありて、連鎖をなせるものは即ち乳である、それだから、若し授乳者に何か故障があると、直ぐ小兒に反響する、されば、若し小兒に異常のある場合には、一應授乳者をも檢査して見ねばならぬ、又授乳者が、異常ある場合にも、つとめて早く、醫家の檢査を求めて、もし異常あらば、忽ち處置を受ける様にせねばならぬ。

便通を整へることも、大切である、殊に秘結の傾ある人は、よく注意し、淸水を呑むか、牛乳を用ゆるか、或は果實によりて便通を扶ける事がある。或は毎朝正規の時間には、必ず圊厠に上つて、腹の右下の方から、右上へ昇り、横に左へ、次で左下へ、即ち腸の經過に沿うて自ら按摩を幾囘も行ふときは、遂に習慣となりて、便を整ふるに至るものである。

右の外尚は注意を要すべきは、精神の養生である。食物とか、衣服とかの身體上の攝生は、十分行き屆いて居ても、精神上、悲歎、憂慮、煩悶、驚愕、不安、不穩等の異常があると、乳の分泌や、成分に影響を及ぼすから、平和な家庭に、秩序正しく、攝生の法を守り、精神上の苦痛感動を覺えぬやうにするのが大事の要點である。

家庭衛生

衛生雜話（三）

H. S.

（三）家庭と衛生

家屋の用は、風雨、寒暑等の外界の變狀を調節し、此所に住みて財を貯へ、器を整へ、家庭を造り、團

欒の樂みを得るべきためである。

然し一方に利あれば、又一方に害を免れぬ。家屋も時によりては、火災のために奇禍を購ひ、地變のために憂をのこすことがある。

家庭と家屋は、素より混同すべきものではない、『麗はしい家庭』と『美はしい家屋』とは、全然別のものである。

家屋は形で、命は無い、家庭が出來て、ここに初めて生命が出來るのである。

人生は、靈を貴ぶものである、されば、美はしい家屋よりは、美はしい家庭の方が尊い。素より我等の理想としては、美はしい家屋に加へて、美はしい家庭を冀はねばならぬ。

世にはこれを倒にして居る人が澤山にある。金殿玉樓に住んでも、慘憺たる光景を呈せる家庭であれば金玉の美は、一塊の土にだに及ばぬ。

さりとて家屋を全然卑しむことは出來ぬ、一家團欒の樂を得べきためには、家屋より生ずる弊害を防ぎ更に進んで、家屋を善用するように仕なければならぬのは、人間が、靈を愛すると共に、肉をもよく護らねばならぬと、同じことである。

他のことはしばらく措き、家庭と衛生に關すること丈けを考へて見たいと思ふ。

健康はすべてのものの基礎を造る、一家の團欒も健康であらねばならぬ。此健康がこわれてしまふと、どんな快活な家庭でも、しめつぽくなる。

我等が健康を維持せんには、第一衛生の事に心がけねばならぬ。

素より土地の撰擇とか、建築の方法とか、衛生上の法則通りを守るにこしたことはないが、しかし、時としては、割に不滿足の程度で忍ばねばならぬこともある。

かかる場合にありては、成るべく其弊害を少くし、其利用を多く謀らねばならぬ、これ注意によりて大に扶け與ふ所の事柄である。今二三のことを述べて見ると。

第一は、家庭に於て科學を應用せよと言ふことである。食物を造るにしても、器具を買ふにしても、廢物を利用するにしても、文明の利器を應用するにしても、習慣だとか、何だとかを重んじて、科學的にこれを善用することを知らぬ場合が多い、科學的とは、成る丈け理に適當た、賢い、經濟的の方法である。

科學の力の應用されぬ處には、無益の勞力と、過剩の費用と、時間とを空費することになる。

第二には、清潔と言ふことである。精神の聖潔は申すまでも無いが、家の清潔も、重要な條件である。清潔な家屋は實に心持ちの良いものである。我等には、動もすると、家のものには、不潔な所は知れても、他人には、不潔な所を見せまいとする傾がある、自分の居室は、穢なくても、客間を奇麗に仕様と謀る、即ち一つの家でも、其室によりて、清潔、不潔の度に輕重がある。

此うちわけて注意を要すべきは、廚である、此所は我等の生命を續ける所の重要な榮養の整理せらるる場所である、然るに、平然として不潔極まるまゝに放置しておくものが少くない、客間に萬金を投じ、一個の指環に千金ををしまぬ人も、廚の修繕を怠るものあるは、我々の實見する所である、かくて榮養品の調理場が、黴菌の購買所となりて、人に禍を醸すことあるは、日常我々が目擊するところ、疾病の多くは口から這入ると言ふではないか。これが爲めには、下婢の教育も要る、科學の力も要る。

我等はまた動もすると榮養の善用を忽にする事がある。ある人は衣を第一とし、次に食、終りに住と順をつける。然し此順は衛生上の守則ではない、第一に食、第二に住、第三に衣とするのが妥當であらう。廚の清潔は、外部の如く見えても、其詰りは、內部の清潔になる、廚の品々は、人の口に入るからである。

內部の清潔と共に、一方には外部の清潔が伴はねばならぬ。わけて直接身につける清潔は緊要である。

さらば、贅費を省きても浴湯を家に設くる方がよい家に其備へなきものは、勉めて其清潔を忽にしてはならぬ。

これに次では、衣服である、衞生上、『汚れし錦』よりは、『淸らけき木綿』の方が尊い。洗濯して、身に汚れしものをつけぬようにするは、家にあるものゝ任務である。

其他病者の看護、不潔物の處置、悉く科學的であらねばならぬ。

家のうちは、平等齊一に淸潔が行屆かねばいけぬ、床間の柱、拭ひて光澤燦爛たりとて、厨に蛆わき、厠に雜巾を入れしことなきが如き家庭は、まことに危險千萬なことである。

家屋の目的は、第一に我々の健康を維持するためである、然るに不注意の爲めに、我れから疾病を招くがごとき事ありては、人としては、寔に面目なく、家庭の團欒を殺ぎ、人にめいわくを及ぼし、家屋に對しても、濟さぬわけではあるまいか。



質疑

問・

貴會愈〻御隆盛賀し上げ奉り候陳れば私し事喘息が持病にて毎年寒氣に向ふと喘息が起り始終咽喉がゼロ〳〵と致し居り候て氣分惡しく烈しき時は夜分少しくウト〳〵と眠むる位にて身體非常に疲勞を覺へ候次第にて甚だ困難いたし居り候へば何卒素人療法の出來るもの及び攝生法等を御敎示下され候はゞ幸甚の至りに御座候間甚だ恐入り候へども何分の御回答を偏へに願ひ上げ候草〻頓首

一月八日　　東京の一會員

答・

喘息は二十歳乃至四十歳の間に多く比較的男子を襲ふ神經性の極めて頑固なる病氣の一でありまして其根治的療法に至つては古來專門醫家の頗る

苦心する所でありますが今尚完然なる業績のないのは遺憾であります即ち醫家は本病發作時に於ける苦悶を治癒し得る術を持つて居るがこれが再發を豫防する事は頗る困難であります。

本病の原因と認めらるゝは多くは神經性なるも亦遺傳、體質、血族、氣候、季節、及び生活狀態等は不尠關係を持つて居ます例ば性來の神經質、兩親及同胞の喘息、不順なる氣候、又は居常辨説を以て業とする人等は比較的本病を誘發し易いは事實であります故に療法として是等の障碍に注意するは最も必要なる事と思ひます而して一度本病發作の襲來を受くる秋は直に信用ある醫家の治療を仰ぐと同時に再發の豫防に務めなければなりませぬ是れには多法ありますが今日一般に行はれ居る素人療治としては、硝石の水溶液を浸せる紙片を室内に燃燒し或は彼の喘息煙草を喫するに因りて往々奏效したる實例もあれば試みる價値があります喘息煙草には種々あるがデスベル氏卷莨、ゲラルト氏卷莨、ボンベロン氏卷莨等何れも有效であります其他心身の安靜、轉地療養、滋養强壯に富む食餌を採る等一般の攝生法は勿論必要であります。

問● 貴會益々御清榮賀し奉り候陳れば私母今年五十二歳に相成り平常健康にはあらねども格別病氣とてもなく昨年一月より齒をいため候てより拔け齒にて二本を拔き取り候てより少しも痛まず又今年下行前齒の次ぎ俗に絲切齒と申す齒に孔もあかずゆるぎもせず痛み劇しきより直ちに齒科醫の診察を受け藥をつけ候時は宜しく候へども其後又痛み續いて耳や頭まで痛みて困り居り候右は如何致し候へば宜しく候哉甚だ恐入候へども何卒其の療法御教示下され度偏に願ひ上げ候

一月十一日　山形市　會員某女

答● 齒痛は齒に異狀なく單に神經痛として來る事あるも多くは齲齒に因つて起るものでありますが齲

歯を起す原因の中でも口腔の不潔と云ふ事が大なる關係を以て居ます故に毎食後は必ず清水亦は少量の食鹽を混じたる水にて能く洗嗽する事が肝要であります歯痛甚しき時は左の如き藥劑を求めて含嗽せらるべし。

薄荷油	四滴	鹽酸加里	二匁
清水	二合		

右は能く振盪して用ゆ。

亦齲洞を發見し得たる時は其洞内にクレヲソート或は石炭酸を小なる綿球に浸して插入し置く時は一時の苦痛を凌ぎ得られます其れ以上の事は宜しく歯科醫に依頼なされて適當の治療を仰がるゝが肝要であります。

雜報



○傳染病國庫補助費

傳染病國庫補助費中從來最も多額の補助を要せしは赤痢病にて一ケ年二十萬乃至二十五萬圓を下らざりしが近年は漸次減少して僅に六七萬圓となれり之れ當局の處置其效を奏したるを證するものなるが之に反して腸窒扶斯は漸次增加し多額の補助を要するに至れり尤も右は從來隱蔽し來りたるものが近時衛生思想の發達に依り表面に現はるゝに至りたるものにして豫防上却て好結果を呈し誠に喜ばしき事どもなりと當局者は語れり。

○衛生講話會の配附

國民心身の剛健は實に國家富强の基なるを以て廣く國民に衛生思想を鼓吹普及することは極めて切要な

るに依り内務省に於ては去る三十七年三宅博士(秀)に囑托して衛生講話の著述を請ひたりしが稿成りて去る四十年之を文部省に移し其後同省に於て之を査閲したる上にて印刷し全國各小學校に向つて今回各一部を發送したり因に該書は總て九十頁より成り第一敬身篇第二淸潔篇第三節制篇第四勤勵篇第五公德篇の五篇に區分されありしと。

○奇特なる衛生組長

神奈川縣下の小田原町は有名なる惡疫の流行地にして虎列拉赤痢腸窒扶斯等の諸病年々發生して住民を戰慄せしめ特に昨年の如きは昨年七月以來十二月迄に五百餘名の腸窒扶斯患者を出して大恐慌を來したりしが其間に立ちて同町幸町一丁目鷲尾公麿、同二丁目廣井德平萬年町二丁目北村善太郎新玉町一丁目山本民藏及び隣接せる大窪村字板橋内野種三郎の五名は十數年間衛生組長の職に就き絶えず衛生講話を開きて公衆衛生思想の普及を圖り惡疫の發生に遭ふや家業を抛ちて豫防事務に奮勵し就中鷲尾公麿氏の如きは七十三歳の高齢を以て二十七ヶ年間衛生事務に盡瘁し來りたる等其功勞顯著なるより右五名に對し今回神奈川縣知事より褒賞を下賜し之を表彰すと云ふ。

○室内の衛生

寒氣の日増しに加ふるにつれ、各家共防寒の爲め多量の木炭を使用し、且つ室内を密閉する爲め、往々炭酸瓦斯中毒に罹り、人事不省に陷り、甚しきに至りては生命を失ふ者あるは從來其例尠なからざるが之に就き警視廳衛生課員の談を聞に、我邦の如き家屋の構造にては、洋館の如く湯管を通じ、且つ完全なる暖爐を設けて炭酸瓦斯を屋外に配出して溫氣を保たしむる事は困難にして、一般家屋の構造を改造するに非らざれば、冬季木炭の使用を停止せしむる事能はず、目下の處にては瓦斯の害毒を減少せしむるの外良法なかるべく、先づ是れが方法としては(一)室の上部に窓を作り、空氣の疏通を爲さしむる事(二)炭火は必ず室外に於て赤化したる後に非らざ

れば室内の温暖爐、又は火鉢に入れざる事(三)常に湯を沸騰せしめ、室内に水氣を保たしむる事等なるが各人互に此三ヶ條に留意するに於ては、先づ炭酸瓦斯中毒に罹ることなかるべしと。

○麻疹の流行

寒氣の激しきに連れ麻疹漸く流行し日本橋區内魚河岸附近の如きは頗る猖獗を極め居れり嚴冬の麻疹は最も警戒を要すべきものなれば病中の心得竝に發病當時の症狀に付き小松小兒科院長の語るところ左の如しと。

▲眞性麻疹の特徴は小兒でも大人でも麻疹に罹ると三十九度前後の潮熱を覺え一兩日の後に至り全く平熱に復するが更に一日か二日經つと又以前の高熱を發する、發熱の模樣が旣に是に似て居る上淚が出たり或は輕き咳嗽でも發るやうなら麻疹の徵候と判斷して一應醫師の診察を受けるが宜い、此時醫師が患者を診て若し麻疹であれば口腔内にコップリッスの斑點を發見するが此の斑點は卽ち眞性麻疹の特徵で此時は旣に眼球或は咽喉内に粟粒の如き疹を發生し更に素人の眼にも解るやうな顏面及び四肢の發疹は夫れから後の事である。

▲併發病と衞生法　斯くて四五日を經過し全身に出揃ひ其後五日を經過する時は全治する順序なるが併し此經過を示すのは卽ち治療法も衞生法も完全に行屆きし結果にして玆に恐るべきは昨今の嚴寒に向つて發生する麻疹は多くは恐るべき肺炎を併發し或は激烈なる腸加答兒を併發する事であるこれは時節柄頗る注意を要すべき事故麻疹の疑ひがあつたら先づ外出を嚴禁して寒風に曝されたり又餘り冷たい空氣を呼吸させぬ樣にし尙其他の衞生法として食物の攝生が大切であるし又恢復後の衞生法が惡い爲め身體の衰弱を來し榮養不良症を起す事もある、元來麻疹は傳染性のもの故小兒の多い家では患者を隔離する事竝に一度此疾病にかゝつたものでも決して免疫の安心は出來ぬ故此際決して油斷は出來ないとの事なりし。

○慈善的産院を設けよ

出産は婦人に取つて、最も重大な、且つ最も危險な出來事であることは、新しく言ふまでもない。然るに我邦では、今日上流の家庭でも、之に對する用意を怠り、爲めに産婦をして、取り返へしのつかぬ重體に陷らしむる事が隨分多いと木下醫學博士は語られし。茲に言ふ用意とは、出産に用ゐるお湯や襁褓や其他の道具を言ふのではない。萬一の際に缺くべからざる産科醫を言ふのである。尤も平産ならば別に産科醫の必要もなからうけれども、難産の場合には、産婆丈けでは到底間に合はない。何故なれば、産婆の職務は法令に依つて限られ居り、其以上の手術には、手を出すことが出來ない。又手を出さうとしても、醫師の素養が無いから、力に及ばない。そこで萬一産婦に異狀があつて、急に醫師を迎へた所が、其間には多少時間を要するから、手後れになつて、取り留めらるべき生命をも徒に失ふやうな事になるのである。これ凡て出産を專ら産婆任かせにするから起る災難である。併し縱令醫師の必要を感じて居ても、資力の無い者は、頼みたくても頼むことが出來ない。於是慈善的産院の必要が起るのである。然るに今日の慈善事業の或るものは名を、慈善に借つて實は自己の生計の資に供するものである。我儕の言ふ産院はそんなものではない。悠に生活の資ある人が、眞に慈善的にするものでなければならぬ。必ずしも立派な建物は要らぬ。寧ろ手輕で、成るべく貧民窟に近く數個所欲しいのである。其方法は幾らもあるが、例へば全部施療にするも可いし、或は産婦の出し得る丈け五十錢でも一圓でも勝手に出さしても可い。いづれにしても、無資力者をして出産より起る種々の不幸から免れしめ、安らかに出産を全うせしめて、國家の活動力を増すといふ目的に叶へば宜いのである。慈善的産院は獨り貧民に對する福音たるのみならず、普通の開業醫や産婆に對しても講習の機會を與へ、實地研究の材料をも給し得るを以て、一擧兩得の方法であると思ふ。吾儕は

世の富豪と稱せらるゝ人々が、其一夕の宴會費を割いて、憐むべき多數の貧民の爲めに、慈善的産院の設立を希望して止まないのである。

○各區衛生部員の活動

市内の雪搔は東京市の道路衛生の主旨に基き各區役所の衛生課職員は祭日であらうが日曜であらうと臨時勤務といふ名稱の下に全員總出となり一區内を數部に分ちて監督し一刻も早く我擔任區域の雪搔きを終りて功名せんと孰も競爭の姿なり隨つて去る十日の如きは各區とも午前二時頃より區内の除雪請負業者等が照會し來るに任せ區吏の當直員は降雪の量を檢して直に準備に着手し早きは三時頃より萬字巴と降る雪を物ともせず數十名の人夫を指揮して八九時頃には公道の雪搔大概終りたり是程奔走しても除雪は一般に區吏の臨時勤務となり居れば僅に五十錢の慰勞金を頂戴するに過ぎず。

人夫の召集　各區には五人乃至六人位宛の除雪請負業者あり其手より人足を召集すれど雪と聞いては容易に動かず、よく〳〵其日の飲代に窮した連中ならではオイソレと集まらぬより別に中請負をする者ありて四方八方に駈廻り一人にても多く集めて其頭數に依りて上前を刎る其刎方は凡そ一人に付六七錢を限りとす之でも尙人足の集まらぬ時は區役所から大目玉、其上他の請負事業までも差止められんとするより當業者も雪には閉口なりと云へり。

二千五百圓の雪　區に依りては公道の廣狹もありて一概には云ぬが平均三百人以上の人夫を要し十五區の雪搔人足の總數は約五千人の多きに上り一人前の賃金は五十錢平均にて勞働時間は凡そ四時間なり尤も人夫不足の場所は一昨日も午後二時頃迄掛りしが之は矢張り四時間四五十錢の割合にて賃を與へたれば一昨日の雪にも約二千五百圓は消えて失なれり。

積雪二寸と坪五厘　積雪量二寸以上より雪搔きに着手する規定なれば請負業者等は雪の二寸に達すれば直に人足の召集に狂奔し市よりは一坪五厘の割にて請負ふ事とて成るべくは短時間に仕事を終らんとし

て奔走する様實に目の廻る程忙はしきことなり。

○栗本第三部長の歸朝

歐米視察中なりし警視廳第三部長栗本庸勝氏は舊臘二十五日夜丹後丸にて横濱に入れり氏は先づ本年八月十日より一週間獨逸國フランクフルト市に開催の第一回萬國人命救助會議に列席し次に十月二十五日より一週間佛國巴里府に開催の第一回萬國冷藏會議に列席し其後は花柳病豫防方法に就て列國を視察したるなり、救助會議には災害の際患者の運搬法に就て議論沸騰し冷藏會議には伊國の如きは農商務大臣自ら出席し主に軍隊糧食の冷藏法に就て熟議する所ありたり、花柳病豫防法は日本の如く露骨に行ひ居る國は無しこれに就ては追て精細なる報告を公にすべしと云ふ。

大日本婦人衛生會記事

○本會新年會

一月九日(土曜日)午後二時より神田一ツ橋通り女子職業學校内に於て前例に依り新年の禮を兼ね本會の新年會を開きぬ、當日は總裁東伏見宮妃周子殿下には御洋裝麗はしく御臺臨あらせられ、暫時御休憩の後、副會長濱尾男爵夫人の御先導にて式場へ御用掛宮岡嘉子を從へ御臨場あらせられたり、此時一同立て最敬禮をなし、副會長濱尾夫人は簡單に新年の辭を述べられて式を終へ、夫れより直ちに餘興に移り、貞水が例の如く快辯を振るはれ『母の敎へ』及び『勇婦秀の傳』の講談ありし後、殿下には別室に於て御少憩の上、御機嫌最と麗はしく御歸邸遊ばせられたり、此日會するもの約三百餘名なりしが一同へ茶菓等を供せられ各自歡を盡して談笑の裡に散會せしは同四時半頃なりしと。

○當日出席の役員は左の如し

濱尾作子　吉武輝枝子　田村喜代子
高橋孝子　松平芳子　高木錸子
羽田三緒子　土肥多越子　仁禮壽賀子
宮本榮子　三浦數子　鳩山春子
小川幸子　岡山とし子　山本多穗子
長谷川仲子　濱田捨子　（以上出席順）

○當日の寄附

一密柑　二箱　濱尾作子
一金五圓　仁禮壽賀子
一金貳圓五拾錢　關　邨子

○新潟支會講師役員、會員氏名

○講師

醫學士　池原康造　醫學士　長谷川寛治
同　若杉喜三郎　長井千尋
醫學士　工藤秀一郎　黑岩福三郎
醫學博士　澤田敬義　醫學士　前田侍三

○顧問

高橋辰五郎　長谷川一詮

○役員

會長　竹山れつ子　副會長　關　やす子
幹事　中村しげ子　幹事　古閑はつせ子
同　清水くり子　同　高橋ただ子
同　和田くに子　評議員　小柴きく子
評議員　若杉きく子　同　鍵富かう子
同　吉村きよ子　同　荒川てい子
同　坂本いち子　同　澤田いつ子
同　松野なほ子　同　八木ゑい子
同　鍵富しん子　同　高橋なみ子
同　鏡淵りう子　同　櫻井うめ子
同　江部さだ子

○終身會員

鍵富せつ子　鍵富かう子　古閑はつせ子
小出てい子　鈴木さだ子

○特別會員

保倉ちよ子　小柴きく子　安藤かうの子
坂本いち子　前川菊の枝子　布川ます子
長澤こう子　松野なほ子　吉田きん子
森田なほ子　新関かが子　江口みつ子

高橋なみ子　松木みき枝子　鳥居みさを子
高橋ただ子　池原つぐ子　坂口あさ子
笹村えい子　香場ちよの子　長谷川じゆん子
高橋さだ子　高橋末子　長谷川うた子
黒岩松枝子　荒川てい子　齋藤かう子
清水くり子　前田むつ子　櫻井うめ子
中村しげ子　若杉きく子　鍵宮とき子
竹山れつ子　八木ゑい子　江部さだ子
關やす子　鈴木とめ子　家坂りやう子
和田くに子　澤田いつ子　清水なみ子
齋藤あい子　三池とみ子　辻澤まし子
平塚しげ子　河合てる子　長谷川まち子
黒田うめ子

○通常會員

岩淵せい子　吉村きよ子　須内ひさ子
若松よし子　高田せん子　松井ふで子
竹内たけ子　宮坂とさ子　中村うめ子
伊藤よし子　篠原きし子　小林うめ子
吉澤とり子　行形いき子　金井そめ子
長井さと子　齋藤たま子　工藤せい子
阿部きく子　清水とよ子　和田ゆき子
内田はろ子　大池いし子　金巻とや子
佐藤しん子　齋藤きく子　鍋谷きな子
大西ひさ子　木野井ゆきの子　佐々しげ子

館れい子　大橋とし子　志賀ちゑ子
白勢はな子　村山のぶ子　鏡淵りう子
竹内かう子　石山りん子　中野せき子
中山とう子　會津やす子　青山つね子
齋藤せき子　齋藤まつ子　齋藤まさ子
小澤たけ子　丹羽みす子　渡邊くら子
本山かね子　木下てつ子　倉田きく子
清水ふみ子

○支會員甲之部

吉田かね子　柄澤より子　塚野まさ子
石橋きし子　長谷川せん子　涌井とよ子
味方あさ子　味方すな子　青木しづ子

○支會員乙之部

中村ちよ子　尾原きく子　高田つろ子
眞部のぶ子　外山やゑ子　佐藤すみ子
小林せい子　遠藤みい子

○地方部特別會員

中蒲原郡龜田町　池田よね子
北蒲原郡新發田町　谷みつ子
長岡市寶藏院町　山口きよ子
北蒲原郡中浦村天王　市島じゆん子
西蒲原郡五の上村　笹川たし子
北蒲原郡新發田地藏堂町　水島さだ子

清國大連兒玉町　加藤かう子
廣島市大手町八丁目　桑原みさご子

○地方之部通常會員

北蒲原郡新發田町　關井じゆ子
佐渡郡相川町　荒井榮子
南蒲原郡三條町　大岡きし子
中蒲原郡新津町　石崎はつ子
北海道小樽堺町　佐野一枝子

○地方部支會員乙之部

中蒲原郡沼垂町　柴澤みき子

○本會入會者

○事務所申込

●名古屋市中區下前津二六二　通常會員　槇なみ子

○濱尾作子紹介

●日本橋區濱町一ノ一　特別會員　仁杉うた子

○高木鍒子紹介

●神田區裏猿樂町　特別會員　三輪八三子

○石橋はや子紹介

●秋田縣南秋田郡宮澤村笹川方　通常會員　曾根きみ子

○茨城支會

●　特別會員　坂逵子

○新潟支會

○和田くに子紹介

●　特別會員　長谷川まち子
●　特別會員　黑田うめ子

○山形支會員資格變更

●特別に變更　通常會員　久保田文子

○轉居

●赤坂區青山南町六ノ一〇一へ　松下貞子
●小石川區表町一〇九へ　小塚千年子
●牛込區箪笥町四三へ　久保田文子
●本鄉區丸山新町十九へ　岩井三子
●京橋區竹川町十三へ　內藤千代子
●府下淀橋町柏木字成子一二三へ　三木椿子
●鳥取市奇町一ノ七五へ　伊藤敏子

衛生帯

壹號　壹組　金壹圓也
貳號　壹組　金六拾五錢
吸收綿拾個入壹包　金貳拾貳錢

電話本局千九十六番
振替口座一〇一六八番

醫科大學教授
木下博士撰定

婦人衛生帯

解説書御入用の方は郵券貳錢を添へ御申越下され度候

發賣所
東京神田區淡路町
風雲堂藥品部

従來婦人月經時に用ひらるゝ紙或は綿花の類は其消毒の不完全よりして往々不慮の疾患を招くの憂なしとせず然るに木下博士撰定に係る婦人衛生帯なるものは全く之れ等の不備を補ひたるものにして起臥歩行に少しも不自由なく又衣服等を汚損せず使用頗る便利にして安全なるものなれば衛生を重せらるゝ御婦人方は續々御使用あらんことを希ふ

私立大日本婦人衞生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を選任す 役員の任期は一ケ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ケ月又は一ケ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上著羽織は絹布を用ゆるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衞生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衞生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ケ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスル片ニハ其旨事務所ニ届出ヅベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ケ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ケ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地、行森氏方

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會 米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に置く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條 毎月一回（第二日曜午後一時より四時迄）講話會を開き毎年五月總會をなし役員改選竝會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に届出べし

但し既納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 會員及員外篤志者より金品の寄附あるときは役員協議の上特待員又は賛成員となすべし

第九條 講話の席は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を著用する事

第十一條 特に支會則に掲げさるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立 大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第參號

メッキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號

正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號

七拾錢（黒塗箱入 送費九錢）

六拾錢（桐箱入 送費六錢）

第二條　會員章は本會竝に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章ば上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り每月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納附相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のこと、す●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麹町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介

下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之　本誌一部定價貳拾錢

東京市麹町區富士見町二丁目三十一番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

編輯兼發行者　東京市下谷區竹町五番地　齋藤清之丞

印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　今井甚太郎

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍

明治四十二年一月十六日印刷
同年一月二十日發行
婦人衛生雜誌第二百三十號
（每月一回二十日發行）